

2004年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

資料1005

結 義 信 園

東京大学出版

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（戦争と障害者）		秋学期	2単位	生瀬 克己
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>20世紀は戦争の世紀であったといわれるが、わが国の歴史をみても、20世紀の前半は特に「戦争の時代」との様相を呈している。このような戦争の時代に、「傷痍軍人」とよばれた戦争がつくりだす障害者があらわれる。この「傷痍軍人」をキーワードにして、戦争の歴史をみていくと、何が見えてくるのか。それがこの講義のテーマである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>戦争で障害者になるというのは、いったい、何を意味していたのか。それを歴史的にみていくと、そのようなことになるのか。それは人びとのなかに何を残したのか、また、何も残さなかったとすれば、それは何故なのか。そうしたことを考える講義にしたいと思う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>各講義ごとの各学生の受けとめ方を大切にしたい。それゆえ、出席重視を前提とした評価となる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要なときに適宜紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（キリスト教Ⅰ）	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	滝澤 武人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本学の「建学の精神」である「キリスト教」の立場から「世界市民」に光をあてることがこの講義の目標です。本学のモットー「我に従え」の我とは、もちろん「イエス・キリスト」のことです。したがって、一人の人間として生きていたイエスの歴史的な姿を学問的に明らかにすることが課題となります。どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような状況の中で誰に向かってどんなニュアンスで語りかけられたものなのかを慎重に判断しなければなりません。</p> <p>イエスは人間の自由と尊厳のために闘い、十字架刑に処せられて殺された人間です。そのイエスの生き方は、「キリスト教」の枠をはるかに越えた普遍性と世界市民性を獲得しています。イエスの精神は、アッシジのフランシスコ、ザビエル、マザー・テレサらに受け継がれ、現代においてもなお、教育・社会福祉・人権・ボランティアなどの人間的問題に関心を有する人々に、大きな感動と希望を与えつづけています。真面目な学生諸君の熱心な受講を期待しています。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>全体的には、滝澤武人著『人間イエス』の内容にそって講義します。</p> <p>序 イエスをもとめて 1 おいたち 2 被差別民衆 3 ヒーリング（癒し） 4 どんな男？ 5 どう生きる？ 6 教会は？ 7 終末 8 死 終 復活</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験（50点）・レポート（20点）・平常点（30点）の予定。 第1回目の授業時間に公表します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>荒井 献『イエスとその時代』（岩波新書） 田川建三『イエスという男』（勁草書房） 大貫 隆『イエスという経験』（岩波書店）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会） 滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）</p> <p>テキストを自分自身で「読む」ことが中心課題です。必ず自分の聖書を準備して、毎時間持参してください。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民—世界市民の原像	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	山 川 偉 也
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「世界市民」という言葉ははっきりとした歴史的刻印をもった言葉である。それは、紀元前4世紀末にシノベのデイオゲネスという男が最初に使った言葉「コスモポリターネス」に由来する。その言葉がどのような歴史的背景や状況のなかで使われるようになったのか、デイオゲネスという男の生き様の解明を通じて考える。そしてその射程は現代にまで及ぶ広大なものであることを知ることにしよう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>デイオゲネス・ラエルテイオスの『ギリシア哲学者列伝』（岩波文庫）に拠りながら、デイオゲネスに関するさまざまな逸話に含まれている「世界市民」主義的思想を読み解いていく。そのなかで、現代に生きるわたしたちが直面しているさまざまな問題を考えるべきヒントを探っていく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>受講態度、レポート、試験等の結果を元にして、総合的に判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>デイオゲネス・ラエルテイオス・加来彰俊訳『ギリシア哲学者列伝』（中巻）（岩波文庫）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>別になし。読書指導を行う。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（障害者問題入門）		春学期	2 単 位	生 瀬 克 己
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「障害者」というのは、どのような人たちのことか。そんなことを理解するために、いろいろな「種類」や「程度」の障害者たちのことを、できるかぎり、具体的に考えていくことにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>障害者というのは、ごくおおざっぱにいうと、身体障害、知的障害、精神障害の三にわけることができるが、現実には、もっと、もっと多様で、複雑な存在でもある。</p> <p>そこで、そうした複雑さをできるかぎり年頭におきつつ、いろいろなタイプの障害者の相違点と共通点を理解してもらえようようにしたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席点を重視することと、講義への誠実な参加態度を大切に評価したい。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要なときに適宜紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民(家庭と人権:過去・現在・未来)		秋学期	2単位	佐藤 啓子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>家族の過去の姿から未来への進化とあわせて、個人の過去（たとえば胎児の「人権」）から高齢者にいたるまでの、いわば足もとの人権問題を、家族を基点に取り上げる。</p> <p>かなり深刻な問題から身近な問題まで、多様な家族の諸相を見た上で、人権問題を意識できる法的思考を身につけることを目標とする。</p>				
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席（必ず取るわけではない）とテスト</p> <p>この講義では黒板はほとんど使わない。その代わりに講義構成のメモを渡すので、しっかり話を聞き理解し考えてテストに望んでほしい。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>デイリー六法（三省堂）</p>				
		<p>[講義計画]</p> <p>まず初回には、家族が現在意識するような形ではなかった時代を取り上げる。次回以降は、胎児になる段階から死にいたるまでのライフステージごとに人権問題として意識しうる状態を順に取り上げる。</p>		
		<p>[参考文献]</p> <p>特になし</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（世界の資源・環境問題）		秋学期	2単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今、世界がどのような資源・環境問題に直面しているかを紹介し、その背景にある社会・経済問題について考えていきたい。</p> <p>地球上の資源や環境は人類全体の共有財産である。20世紀における経済の飛躍的な発展とともに、それらをどのように利用していくか、そしてどのように分配していくかといったことが大きな問題となってきた。21世紀、22世紀と人類が繁栄を持続していくためには、今この問題を無視して通り過ぎるわけにはいかない。</p> <p>世界が直面する資源・環境問題についての基本的な知識を獲得し、世界市民の一人としてどう行動するのかを考える一助に思ってもらえればと思う。</p>				
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験、小論文の提出（2回程度）により評価する。詳細は初回に説明する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>指定しない。</p>				
		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展と人口増加 ・食料の生産と分配 ・水とエネルギー資源 ・森林の喪失と砂漠化 ・地球温暖化問題 ・開発途上国の環境問題 ・グローバル化と資源・環境問題 <p>といった内容をとりあげる予定である。</p>		
		<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（経済学の生成と時代的背景）		春学期	2単位	三邊 信夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済学はアダム・スミスの「国富論」（1776年）に始まる。この講義では、スミスを中心に、それに先立つ重商主義と重農主義およびロバート・マルサスの「人口論」（1796年）とデヴィッド・リカードの「経済学原理」（1817年）の内容を概説し、資本主義の成立期における経済事情と資本主義精神を述べる</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 重商主義 2 重農主義 3 アダム・スミス（1723-1790） 4 ロバート・マルサス（1766-1834） 5 デヴィッド・リカード（1772-1823） <p>（時間が許せば、6 . カール・マルクス（1818-1883）の生涯）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席と試験</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>三邊信夫『経済学説史概論』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（滅びゆく生物を守る）		春学期	2単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間は常に自然の恵みにより生かされてきた。しかし人間が節度を忘れてひたすら効率的に自然から収奪するようになった結果、多くの生物がすでに滅び、また今滅びようとしている。現在、地球始まって以来最大のペースで生物が絶滅しつつあるといわれている。守るべき自然、守るべき生物はどこにいるのか、なにが彼らを滅ぼそうとしているのか、そして世界の市民として私たちは何をすればいいのか。</p> <p>この講義では、生物保全の基礎を事例をふまえながら紹介していく。この地球に存在する多くの生物が人間にとってどのような意味を持ち、なぜ私たちは彼らを守らねばならないのかということを考える機会としてもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね次のようなテーマに沿って進行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と自然の関わり ・なぜ生物を守らねばならないのか ・原生林の保護 ・里山の成立と破壊の歴史 ・ウェットランドー陸と水が出会う場所ー ・侵入生物の脅威 ・生物の有効利用と乱獲 ・絶滅危惧種の把握と保護 ・滅びゆく生物が直面する遺伝的問題 ・生態系の復元 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の講義に対するコメント、2回の短いレポート、および期末試験により判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>鷺谷いづみ、矢原徹一『保全生態学入門』文一総合出版 1996年 田辺和桁『生物と環境ー生物と水土のシステムー』東京教学社 1995年 鷺谷いづみ『サクラソウの目』地人書館 1998年 石井実ほか『里山の自然をまもる』築地書館 1993年 加藤真『日本の渚』岩波新書 1999年 川道美枝子ほか『移入・外来・侵入種』築地書館 2001年 鷺谷いづみ『生態系をよみがえらせる』NHKブックス 2001年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 美術史的西洋史		秋学期	2単位	坂 昌 樹
【講義概要・学習目標】 ヨーロッパには、とても美しい町並みや建築物がたくさんあります。実際に行ってみても、あるいは写真や映画を見ても、感動することが多いのですが、しかしそれだけではどうも物足りない気持ちになります。たとえば日本と異なる町並みを見て、その美しさを楽しむだけでなく、特定の美意識にもとづいた建築様式や計算された景観づくりを発見する方が、ヨーロッパの深みにふれることができるはず。ヨーロッパの人々はなぜあんな装飾をしたのか、あるいはひとつの芸術的表現がなにを象徴しているのか、そうしたことがわかれば、もっとヨーロッパを楽しめるはず。 <p>私はヨーロッパ文化を専門に学んだことはありませんが、しかし何度も旅行した経験から、「世界市民」科目として、みなさんに素人流ヨーロッパ文化紹介をすることにしました。まずは視覚的でとらえやすい美術史をおとして、絵画などを楽しみながら、ヨーロッパ史を展望します。大学の講義では、通常、論理を学ぶことが中心ですが、今回は感性をおとして人間性について一緒に考えてみたいと思っています。</p>	【講義計画】 (1) 中世の暮らし (2) キリスト教の普及と中世の人間観 (3) 教会建築の発達 (4-12世紀) (4) ロマネスクの時代 (11-12世紀) (5) ゴシックの時代 (13-14世紀) (6) ルネサンスの時代1 (14世紀) (7) ルネサンスの時代2 (15世紀) (8) ルネサンスの時代3 (16世紀) (9) バロックの時代 (17世紀) (10) ロココと新古典主義の時代 (18世紀) (11) ロマンティックの時代 (19世紀前半) (12) Imp & Expression、印象と表現の時代 (19-20世紀)			
【成績評価の方法】 毎回の授業後に、出欠調査をかねて感想文を書いていただき、それにもとづいて評価します。	【参考文献】 必要があれば、講義中に指示します。 連絡先：(研究室) アンデレ館7階725室 (tel) 0725-54-3131 (内線) 3725 (Email) ban@andrew.ac.jp 面談：在室中は、随時可能です。			
【教科書】 指定しません。教員が、資料の配布や画像の提示をおこないます。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 (日本という「場所」から考える)	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	深 澤 徹
【講義概要・学習目標】 日本という世界の辺境の「場所」に生まれ、日本語という孤立した「言語」を話し、千数百年の「歴史」を経てきた私たちが、どうしたら「世界」をイメージできるだろう。また市民社会の歴史文化的伝統を徹底的に欠きながら、明治になってあわててそれを外部から輸入し、そこから新たな近代社会を立ち上げてきた私たちにとって、ついには借り物でしかない「市民」という自意識をどのようにして身につけ、それを己のものにしていったらいいのであろうか。「世界」が、「市民」が、そしてその合成語である「世界の市民」が、日本の社会に、そして日本人の自意識にどのように「受け入れられ」、あるいは「受け入れられなかったのか」を考えつつ、その体験を現在にどう生かしているのかを、受講生と共に考えながら講義を進めて行きたいと思う。これといった正解は無い。共に考え、その都度試行錯誤を繰り返しつつ、暗中模索の半年間が始まるはずである。その苦渋を共にする仲間を募る！	【講義計画】 1. 「世界の市民」という概念の歴史的形成過程を跡付ける。 2. 桃山学院大学の「世界の市民」という建学の理念について考える。 3. 「世界の市民」という概念の近代日本への導入過程を考える。 4. 「世界の市民」に類似するその対応物を日本の文化伝統の中に探る。 5. 日本の文化伝統に立脚しながら「世界の市民」として行動する方法を考える。			
【成績評価の方法】 毎回出席を取るなのでその出席状況と、2回行う予定の教場試験で、総合的に評価する。	【参考文献】			
【教科書】 特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 経営国際化と企業の社会的責任		春学期	2単位	稲別 正晴
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日、企業経営は国境を越えて広く国際的に営まれています。いわゆる「経営の国際化」と呼ばれるものです。同時に企業活動が世界の各地域に与える影響も大きくなってきています。与える影響が良いものであれば問題はありますが、残念ながらしばしば、また重大なマイナスの影響を与えます。</p> <p>例えば、1984年にインドのボパールで発生したユニオン・カーバイド社の工場からのガス流出事故や1989年、アラスカでのエクソン社のバルディーズ号石油流出事故は人命や生態系への計り知れない大きな損害を与えました。また、1990年代に、ベトナムの下請け工場で児童を働かせていたことがわかったスポーツ用品大手ナイキに対して全米で不買運動が起きるなど企業の社会的責任が厳しく問われました。</p> <p>本講義では、企業経営の国際化の実体を明らかにすると同時に、企業が「良き企業市民 (good corporate citizen)」としていかなる社会的責任を負い、果たすべきかを論じたいと考えています。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—本学の建学精神と世界市民 2. 経営の国際化1 3. 経営の国際化2 4. 経営の国際化の課題 5. 企業の社会的責任とは？ 6. いくつかの事例 7. 企業の社会的責任への取り組み 8. 多様なステークホルダーへの責任 9. 良き企業市民としての社会貢献活動 10. 各国の取り組み1 11. 各国の取り組み2 12. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト、レポートによる総合評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示します</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教材は配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 経営生活について		秋学期	2単位	面 地 豊
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>高度に発達した資本主義経済社会においては、経営生活は特に重要である。人は、経営に関わりをもつことにより、引込まれることになり、これが支配的である。人の経営生活の暗黒は、人の生活全体が暗くなる。これを明らかにするには、その道のことが必要である。</p> <p>講義の(明と暗)は、これを意味するもの—経営生活が人の生活全体にとって重要な意味をもつ—経営生活について認識を深めることと目標としている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>次の順序に従って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営とは何か？ 2. 現代社会における経営の意味 3. 経営生活の内容 4. おまけ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>1-1 (提出) 40点 1-2 (発表) 60点</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その教養指導する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>1-1 講義にともない、教科書は使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 (人間・組織・文明から考える)		春学期	2単位	村 田 晴 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「世界市民の養成」これは本学の建学の理念である。 情報化やグローバリゼーションによって、世界は大きく変化しつつある。いわば文明が転換しつつあるのである。21世紀における人間はいかなる地位を占めるのであろうか。「世界市民」とはいかなる人間をいうのであろうか。 20世紀の文明は企業活動によって拓かれ、組織中心の時代と言われた。21世紀には組織はさらに複雑化し多様化するであろう。20世紀文明には光もあったが、環境問題などに見られるような影もあった。21世紀はこれをわれわれの問題として引き受けて行かなければならない。 こうした文明論的状況の中で「世界市民」とは何なのか。 このことをわれわれの主題として、ともに学びつつ、授業を進める。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報化とグローバリゼーションによって拓かれる21世紀の文明を展望し、それが人類の歴史においてどのような位置にあるのかを考えること。 ・20世紀の文明を導いた技術と企業活動を概観すること。 ・組織中心の時代と言われたことの意味について概説すること。 ・20世紀文明が残した光と影について考えること。 <p>以上のことを骨格として、文学作品などに表れた「世界市民」観などを紹介しながら進める。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験と、随時行うレポートや小テストなどを総合して評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 (世界の民族問題と人権)	0 1 0 2	春学期 秋学期	2単位 2単位	小 池 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日、世界のさまざまな地域において、異なる民族の間で文化（言語・宗教など）の違いを理由として深刻な対立と紛争が勃発している。民族が異なると共に生きていくことは困難であると語られることも多い。本当に民族の共存は不可能なのか？世界各地で起きている民族紛争と対立を例に取り上げて、いかなる状況の下で異なる民族の間で憎悪や対立が生まれ、そしてそれがどのような道筋をたどって紛争や内戦にまで発展していくのか、明らかにしたい。また、民族問題の解決のために人権の概念がどのように関わっていくかという点もあわせて考えていきたい。 民族紛争と対立を「遠い外国」の話ではなく、より身近な問題として考えてもらうために、日本国内の民族問題も取り上げる。受講者の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなど視聴覚教材を利用する予定である。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 民族とは何か？：民族問題へのアプローチ 2 日本の先住民アイヌ 3 インドネシアの民族問題（マルクとパプア） 4 パレスチナ問題 5 旧ユーゴの民族問題（ボスニア紛争） 6 アフリカの民族紛争 7 日本のなかの「外国人」 8 まとめ 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の出席と期末試験の成績をもとにして評価する。また、必要に応じて提出を求める小レポートの内容も加味して成績をつける。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義のなかで必要に応じて紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 — 西欧文明と世界 —	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	米 山 喜 晟
[講義概要・学習目標] 突如学内の重責をになわれた文学部のある先生のリリーフに起用されたもののすぐにノックアウトされてしまう予定の私などは、世界の住民ではあっても世界市民などとはとても名のれそうもない人間ですが、そういう何の力もない局外者の角度から世界を眺めるのも、若い皆さんにとって案外なにかの参考になるかも知れません。ということで、私の話は退屈で申し訳ありませんが、この機会に皆さんと一緒に、現代の世界を席卷 [圧倒的に自分の勢力範囲におさめること] している感じがする西欧の文明と世界との関係について考えてみたいと思います。ご存じの通り、西欧文明の母胎となったヨーロッパは過去ずっと今のような立場にあったわけではなく、どちらかといえば後進地域でした。しかしじょじょに力を蓄えて、アメリカの歴史家マクニールによれば、1500年ごろから世界の中で突出して来たのだそうです。では西欧文明がどのように発展し、どういう経過を経て今日の地位を築いたのでしょうか。またその将来はどうなるのでしょうか。残念ながらほとんど他人が書いた本の受け売りに終始しますが、こうした問題を半年間かかって考えていくことにいたします。	[講義計画] 1. 世界市民失格。私の失敗と世界の怖さ。市民とは何か。 2. 現代世界の文明とは。いろいろな数え方。その系譜。 3. 現代世界に占める西欧文明の地位と役割。『文明の衝突』の予言。 4. 西欧文明の成り立ち。ローマ文明の遺産。農業革命と商業革命。 5. 西欧文明における地中海世界の重要さ。イタリア・ルネサンスの役割。 6. 7. 西欧文明の重心の移動。絶対主義時代の到来とイタリアの没落。絶対主義国家間の競争。大航海時代の到来。西欧人にとっての新世界の出現。 8. 9. 10. 西欧文明の世界的拡大。マクニール『世界史』、『戦争の世界史』等による西欧文明の飛躍。新世界における植民地の成立。 11. 余談。ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』による、西欧文明に代表されるユーラシア大陸の文明が世界で圧倒的に有利だった理由。 12. 西欧文明のさらなる飛躍。啓蒙主義と産業革命。資本主義の成立。 13. 世界システムとは何か。『文明の衝突』から見た西欧文明と日本。			
[成績評価の方法] 出席点（半分以上は出席すること）、レポート、試験	[参考文献] ウィリアム・H・マクニール、増田、佐々木訳、『世界史』、中央公論新社。 J. ダイヤモンド、倉骨訳、『銃・病原菌・鉄』上・下、草思社。 S. ハンチントン、鈴木訳、『文明の衝突』、集英社。			
[教科書] 必要な資料はプリントして配る。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民 米国の刑事裁判制度と人権		秋学期	2 単 位	小早川 義 則
[講義概要・学習目標] 日米の政治的経済的かわりには密接で刑事事件を主題とした映画等に接する機会も少なくないが、米国の裁判制度についての正確な知識は十分とは思われない。本講義では、陪審裁判の仕組みや有罪答弁（司法）取引等の意義を解説することによって米国の刑事裁判制度に関する知識を提供しつつ、人権保障との関わりやわが国での裁判員制度の導入の問題点についての理解を容易にしたいと考えている。なお、一方通行の講義ではなく、受講生諸君とのコミュニケーションを重視したいので、積極的な発言、質問を歓迎する。	[講義計画] まず日米裁判制度の共通点、相違点を簡単に説明したあと、陪審裁判に関する著名なアメリカ映画を視聴し、その感想文を提出させる。その後、写真入りの詳細なレジュメを用いて米国の裁判制度の仕組みにあわせてわが国の裁判制度にも言及しつつ、人権保障の意義について触れることとしたい。2年間の米国（ニューヨーク）留学の経験を生かして、同時多発テロの目標となった世界貿易センター周辺の地理的状況など、留学体験ならではの生の情報を提供しながら、無味乾燥な内容にならないように努力したい。			
[成績評価の方法] 平常点および期末テスト（又はレポート）を総合して評価する。	[参考文献] 小早川義則『NYロー・スクール見聞記(上下)』（2004年春刊予定） その他、適宜指示する。			
[教科書] 小早川義則＝小山剛『比較人権保障論』（2004年春刊予定） 藤倉皓一郎ほか編『英米判例百選[第三版]』（別冊ジュリスト139号） （有斐閣、1996年）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界市民（在日華僑の歴史と現在）		秋学期	2 単位	過 放
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、グローバル化が進み、物や情報だけでなく国境を超えた人の接触や移動も頻繁になっている。本講義では、日本社会の内なる国際化の視点から身近な在日外国人、特に在日華僑を中心に上げ、中国人コミュニティの形成、中華街の生態、華僑と日本人との国際結婚、新華僑の増加など…在日華僑の歴史と現在に対する考察を通して、日本のなかの外国人と海外における日本人、そして本学の建学理念でもある「世界市民」について理解を深めることを目標とする。なお、授業の進行により、講義計画を一部変更することがある。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本におけるエスニシティ ・在日外国人 ・海外における華僑の歴史 ・日本の華僑史 ・日本華僑社会の変容 ・日本華僑と日本社会 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポートと試験。詳細は最初の講義にて説明する。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過放『在日華僑のアイデンティティの変容』東信堂 ・斯波義信『華僑』岩波書店 ・中華会館編『落地生根』研文出版 ・その他授業中に紹介する。 			
<p>[教科書]</p> <p>未定</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学（日本Ⅱ）（旧日本古典文学）		春学期集中	4 単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本の古典文学の代表とされる「平安文学」は、主に女性によって書かれたことで知られている。世界の文学の歴史からすると、これは極めて異例である。</p> <p>では、なぜこの当時、女性が「文学」をも含めた文化活動の主導権を握ったのか。その事情を、当時の東アジアの国際情勢の中での日本の文化的な位置付けとからめて明らかにしていきたい。結論を先取りして言えば、当時の日本は中国との関係の中で、ジェンダーとしての〈女〉に自らを位置付けて、文化的なアイデンティティ形成を行ったのである。</p> <p>また日本の文学史の中での平安文学の特権化は、第二次大戦後の日本社会と対応して、後から「創造された伝統」（ポズボーム）なのである。そこではアメリカとの関係の中で、自らを〈女〉のジェンダーに位置づけようとする政治的な力学が働いていた。そうした事情を歴史社会的に跡づけていきたい。</p> <p>扱うテキストは、主に「日記文学」や「源氏物語」だが、必要に応じてその周辺のテキストにも言及していくつもりである。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水村美苗著『私小説』と『本格小説』の日本的特質 2. 自己言及テキストとしての私小説と日記文学 3. 自己言及テキストとしての源氏物語 4. 新古今時代の文化概念と天台本覚思想 6. 仮名文の無根拠性と文字の物神化 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>3度の教場試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ハルオ・シラネ、鈴木登美篇『創造された古典』（新曜社・1999）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学（西洋Ⅰ）（旧文学概論）		秋学期集中	4 単位	国 松 夏 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ヨーロッパの文学を交流史的な観点から概観します。</p> <p>担当者の専門はロシア文学ですが、ロシア文学は他のヨーロッパ諸国文学の影響下に成立し、そしてまた影響を与えていますし、そういった事情はロシアに限らないからです。</p> <p>ロシア文学にかたよることなく、様々な具体的作品に言及し、豊富なヨーロッパ文学への読書案内を目指します。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>便宜的にオーソドックスな時代的枠組みに従って講義を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> I. ヨーロッパ文学の源泉 II. ルネッサンス（14, 15, 16世紀） III. 古典主義（17～18世紀） IV. 啓蒙主義（18世紀） V. ロマン主義（18～19世紀） VI. リアリズム（19～20世紀） VII. 象徴主義と《世紀末》 VIII. 《両大戦間》・20世紀 <p>* 各項につき3～4講の予定。ただし、講義の流れに応じて、若干の計画変更はあり得ます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>秋学期末レポートにより評価します。1回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。出席重視、遅刻・私語厳禁。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ヨーロッパ文学に関する参考文献は、枚挙に暇がありません。教室でその都度掲げることとします。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学 (西洋Ⅲ) (旧西洋文学)		春学期集中	4単位	高田里恵子
<p>[講義概要・学習目標] この講義ではドイツ近代文学・現代文学・映像文化の主要な作品を取りあげながら、文学史や文学理論の基本的な知識を獲得し、また作品の読み解きの方法、理論的文章の書き方や考え方を学ぶことを目的とする。 多くの作品に触れ、読書の楽しみに目覚めてほしいと願っている。また、映像化されている作品も多いので、いくつか授業中に観る予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文学とは何か、文学研究とは何か (バロック文学とゲーテを題材として) 2. 世紀末の文学と第一次大戦 3. ナチスと文学的表象 			
<p>[成績評価の方法] 最後に学期末試験を行なう。また状況によっては、理解度を見るために、レポートか小テストを課すこともありうる。試験やレポートでは、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>藤本淳雄他著『ドイツ文学史』(東京大学出版会)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学(日本Ⅰ) (旧日本社会史)	01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	生瀬 克己
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>歴史的な物の見方や考え方の習得をめざすことになる。そこで、具体的な講義においては、それぞれの歴史的背景における「誰が」「何時」「どこで」「何を」「どのように」したか。その結果、時代や社会の何がかわったのかを理解してもらおう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>具体的な講義の展開としては、日本の近代社会の成立過程、つまりは日本資本主義の形成過程を素材にして検討していくことになる。そして、この日本近代の形成過程の研究という一つの課題を前にして、いろいろな専門家によって、意見と理解が異なる理由と意味についても検討していくことにしたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義のテーマごとに小レポートを書いてもらうなどによって、受講学生の理解と参加を参考にしつつ評価することにした。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要なときに適宜紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学（アジアⅠ） （旧 比較文化論）		春学期集中	4 単位	深 見 純 生
【講義概要・学習目標】 海の道による東西交流の歴史をとりあげる。 地域的には東南アジアを中心に扱う。そこには地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が交易世界と結びついて、典型的な海域アジア世界が成立した。時間的には2000年前の始まりから、ヨーロッパ勢力がアジア海域世界に登場するまで、つまり15世紀までを扱う。この間のアジア間交易のシステムの形成と、様々な変貌をあとづけることになる。 海から歴史を見ることで、無意識のうちに陸中心になっている私たちの歴史観を反省する手掛かりになることを期待している。あわせて、具体的な史料を取り上げることによって、史料の背景、史料の読み方、史料の解釈など歴史学の方法の基礎的なことがらにも触れる。また視覚的な理解のため若干のビデオ資料も用いる。	【講義計画】 1. 海域アジア世界 — 島の熱帯、モンスーン、海國 2. 漢とローマ — 海のシルクロードの成立するまで 3. モンスーン航海の確立 — 法頭の航海、東南アジア史における5世紀 4. マラッカ海峡交易帝国 — シュリーヴィジャヤ交易帝国のすがた 5. 広州の繁栄 — アラブ・ペルシア商人の活躍 6. 中国人海商の進出 7. マラッカ海峡=三仏齊のすがた（10~13世紀） — 海賊と国家 8. チョーラの世紀=南インド勢力のマラッカ海峡支配（11世紀） 9. 「都会」 — ネットワーク構造の変化（12~14世紀） 10. ムラカ王国=極集中の時代 — 15世紀の自由貿易港？			
【成績評価の方法】 時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。	【参考文献】 辛島昇・大村次郎『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社 2000〔桃図A292.09〕 長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989〔桃図A209〕 藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982〔桃図A209〕 家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃図A225.9〕			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学（大日本帝國の興亡）		秋学期集中	4 単位	望 月 和 彦
【講義概要・学習目標】 本講は、わが国の20世紀前半の歩みをふり振り返り、新たな歴史認識を得ようとするものである。本講は、従来、わが国歴史学が立脚してきたマルクス主義唯物史観に拘らず、全く異なる歴史評価を行う。歴史を学ぶことは、単に過去の事物を取り上げて懐古趣味に耽ることではない。歴史を知ること、現在を知ることであり、将来を予測する手がかりを得ることでもある。このまま世の中が進んでいけばどのような結果になるのか、現在の私たちにどのような選択肢があり、各選択肢からどのような結果が生まれると考えられるか、このような問題を複雑極まる人間社会の問題としてとらえようとするれば、その手がかりは過去の事例に求めるしかない。 本講の関心も単なる過去に対する回顧ではなく、現在社会の問題解決にある。歴史は繰り返すというが、20世紀前半のわが国の歴史を見れば、その感を益々強くせざるを得ない。そこにはバブル経済の発生とその崩壊、無原則な国際協調政策の弊害、グローバルスタンダードへの無思慮な追随、これらの経済・外交政策の失敗による社会の閉塞感、等々といった今日のわが国社会が直面する問題が、違った形で現れていることが分かる。従って、この時代に何が行われ、何が行われなかったかを考察することは、現在の問題をどう解決すればよいかを考える際に大変有益であろう。 さらに、20世紀前半のわが国の歴史を概観することで、現在のわが国が置かれた状況を歴史の流れの中で把握することができる。それは現在の私たちができること、できないこと、すべきこと、すべきでないことのある意味で規定している。 本講を受講すれば、歴史とは単なる過去の出来事の内顧ではなく、まさに「過去に対する現在の政治である」ことが了解されよう。 講義の詳しい内容については、2003年度に配布したプリントを自宅ホームページに公開する。 ホームページアドレス：http://www.cg-s.bias.ne.jp/~ponchan/	【講義計画】 導入 歴史の見方・考え方 1. 日露戦争 帝国主義国家への変貌 2. 中国の動乱と第一次世界大戦 対華21カ条 排日法——日米対立への道 3. ロシア革命とシベリア出兵 日本外交の迷走 アメリカの意図 4. 大正バブルの生成と崩壊 第二次産業革命 大衆消費時代の到来 5. 大正時代の政治 ワシントン体制の成立 6. 戦間期の世界経済と昭和金融恐慌 7. 高橋財政の登場とニューディール ロンドン世界経済会議の失敗 8. テロとクーデターの時代 統帥権干犯と軍部の抬頭 民主主義の自壊 9. 大陸政策と満洲事変 ワシントン体制の崩壊プロセス 10. 日華事変と国家総動員体制 1940年体制の成立 アメリカの対日政策 11. 日本の安全保障政策 防共から三国同盟へ ノモンハン事件 12. 第二次大戦の勃発からパールハーバーへ 日米交渉決裂の過程 13. ローズベルトの戦争政策 無条件降伏の思想 対日占領政策の形成 14. 戦争の推移と日本の終戦工作 近衛上奏文 15. ポツダム宣言受諾 大戦末期の国際関係 16. 占領改革(1) 憲法、東京裁判 17. 占領改革(2) 経済改革、公職追放 18. 占領期の政治と経済 19. 占領政策の転換 賠償政策の変化 経済安定化へ 20. 冷戦の勃発と早期講和の挫折 21. 共産中国の成立と朝鮮戦争 22. 講和条約と安保条約 日本の再独立と吉田ドクトリン			
【成績評価の方法】 期末試験の成績のみによって評価する。	【参考文献】 最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。			
【教科書】 各自の持っている高校の日本史教科書、参考書、年表				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学 (聖徳太子の人生)		春学期集中	4単位	梅山秀幸
[講義概要・学習目標] 隋の文帝は圧倒的な軍勢を率いて高句麗を攻めたが、負けた。父親の遺志を果たすべく、煬帝は百万の軍を率いて高句麗を攻めたが、負けた。翌年も軍を興したが、また負け、翌々年も軍を興して、またまた負けて、そうこうするうちに隋は滅びてしまった。なにやら、現在の世界情勢に似通っている。大国が必ず勝つとは限らないのだ。日本がすぐに大国の尻馬に乗るのも現在と同じで、聖徳太子は隋べったりの政策を採って、火傷を負った。しかし、そのこともあってか、「世間虚仮」という真理に目覚めて、もともと仏教に傾斜していた太子は、いよいよ仏教の研鑽に励むようになる。東アジアの歴史の流れの中で、日本の古代を考え、三国伝来の仏教が日本に受容されていく有様を聖徳太子の生涯を通して考えて見たい。	[講義計画] 1、仏教伝来について 2、仏教と国家—梁の武帝、百済の聖明王、そして新羅の真興王 3、「宗教戦争」とその傷跡—河内、和泉において 4、小墾田宮への遷都 5、冠位十二階の制定 6、憲法十七条の発布 7、小野妹子の隋への派遣 8、隋の煬帝の高句麗遠征とその失敗 9、『三経義疏』を読む 10、法隆寺について			
[成績評価の方法] 試験による。	[参考文献] 『日本書紀』(岩波文庫)			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史学 —浮世絵の社会=文化構造—		秋学期集中	4単位	佐賀 朝
[講義概要・学習目標] 本講義では、何人かの著名な浮世絵師の作品を取り上げながら、日本の民衆文化を多彩な形で創造した近世(江戸時代)の巨大都市・江戸の社会=文化構造を解き明かす。文化の表層をなぞるのではなく、文化をつくり出す基礎となった社会そのものの構造にもメスを入れる形で「江戸」の文化創造力の源泉に迫りたい。 この講義では、まず歌麿・写楽・北斎などの作品について、作品論的な観点から考察をくわえる。その上で、彼らの作品を成立させた社会的な背景を探るべく、浮世絵の画題となった江戸の多様な社会=空間や文化現象について論じていく。具体的には、芝居興行、遊廓、両国(盛り場)、講中、町火消、若者仲間などを取り上げる。 こうした作業を通じて、日本文化を社会史的な観点から研究していく方法を学ぶとともに、社会構造分析と結びついた文化研究の新しい可能性を探っていきたい。	[講義計画] 写楽の役者絵と芝居の世界 写楽の第一期作品について/寛政期の芝居興行と江戸・上方/芝居地の社会構造 広重名所絵の虚像と実像 広重名所絵の虚構性/両国一名所の社会構造— 歌麿の美人画と吉原 歌麿「北国五色墨」について/新吉原と仮宅 北斎「富嶽三十六景」と江戸の富士信仰 北斎の作画変遷と「富嶽三十六景」/江戸の講中 国芳と江戸の民衆世界 奇想の絵師・国芳/町火消と若者仲間 浮世絵の社会=文化構造 錦絵の毒素/錦絵をめぐる社会構造			
[成績評価の方法] 出席・受講態度、小テスト、定期試験などにより総合的に評価する。	[参考文献] 浅野秀剛・吉田伸之編『浮世絵を読む』1~6(朝日新聞社、1997~98年) 吉田伸之『身分的周縁と社会=文化構造』(部落問題研究所、2003年)			
[教科書] 必要な資料は授業のなかで随時、配付する。	その他、授業のなかで随時、提示する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学 (言語学 I) (旧言語学)		春学期集中	4 単位	清 水 真 一
[講義概要・学習目標] "言語"はわれわれにとってあまりにも身近なものであるから、日頃それについて真剣に思いをめぐらすこともそうたびたびあるわけではないだろう。本講では、まず人間言語と他の"コミュニケーション手段"との比較をおこなうことから話しを始める。さらに科学としての言語学を隣接分野とのかかわりにおいて眺めると同時に、そのなかで"言語"をできるかぎり明示的なかたちで把握すべく議論をすすめたい。そのため若干の数理的準備をすることになる。しかる後、人間言語についての"文法"に関する複数個の考え方を受講生諸君に提示し、われわれにとって身近な"言語"なるものに対する関心を惹起せしめることを目指す。"言語"についてのより真剣な思索への導入となれば幸いである。	[講義計画] 1. ことばと他の"コミュニケーション"システムとの比較論的考察 2. 言語学と隣接分野 3. 若干の数理的準備 4. 人間言語と、"文法"についてのいくつかの考え方 5. 文法のサンプル			
[成績評価の方法] 原則として、クイズ、定期試験に基づき総合的に評価する。	[参考文献] クラスにて適宜指示する。			
[教科書] プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想 (アジア) (旧アジア思想史)		秋学期集中	4 単位	小 林 信 彦
[講義概要・学習目標] 人間は死んだ後でどうなるのか。インドと中国と日本では、それぞれ文化の違いを反映して、死後について考え方が非常に異なる。この問題を取っ掛かりに、二つの文化の違いを理解させる。	[講義計画] まず、加地伸行の「儒教とは何か」を読ませて、儒教の大枠の知識を身につけさせ、次に仏典から大事な箇所を抜粋して、インド的な考え方を基本を教える。さらに、インドで作られた仏典が中国と日本でそれぞれどう読まれていたかを詳しく説明して、死についての考え方に根本的な違いがあることを理解させる。			
[成績評価の方法] ① 授業中の質問と発言を特に評価する。 ② 課題ごとに小試験を行い、折にふれて授業内容の要約を提出させる。 ③ 学期の中間と学期末に試験を行う。	[参考文献] そのつど複写して配布する。			
[教科書] 加地伸行:『儒教とは何か』(中公新書) これ以外は教室で複写を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想—西洋（旧社会思想）		春学期集中	4単位	山川偉也
<p>[講義概要・学習目標] エレアのゼノンの運動逆理の探求を通じて、西洋思想をトラベルする。ゼノンの逆理が西洋思想に残した影響はきわめて深いものがある。時間や連続にかかわる思想の流れはその一端にすぎない。この講義は、ゼノンの逆理を中心テーマにしなが、古代ギリシアから現代にいたる西洋思想の根幹をなす自我・時間・連続・神などの概念をめぐる諸問題を闡明しようとするものである。</p>				<p>[講義計画] はじめに、古代ギリシア思想の概観を行い、その流れのなかにゼノンの逆理を位置づけする。そのうえでゼノンの逆理そのものの紹介を行い、次第にその背景にある諸問題へと入っていく。そしてそれらの諸問題が継承され展開されていった西洋思想史の流れの叙述へと入っていく。</p>
<p>[成績評価の方法] 受講態度、出席率、小テスト、試験の結果などを元にして総合的に判定する。</p>				<p>[参考文献]</p>
<p>[教科書] 山川偉也著『ゼノン、4つの逆理』講談社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想 (イスラーム)		春学期集中	4単位	今 澤 浩 二
<p>[講義概要・学習目標] 混迷を深めるパレスチナ問題や9・11テロ事件をはじめとして、イスラームは、現代の国際情勢を見る上で欠くことのできない要素となっている。イスラームについて理解することは、今や緊急の課題である。 イスラームは単に宗教にとどまらず、信者の日常生活すべてを規定する社会秩序でもある。本講では、イスラームを考える上で特に重要な項目を取り上げて解説し、イスラーム世界への理解を深めることを目的とする。</p>				<p>[講義計画] 1. 六信五行 2. 預言者ムハンマド 3. コーラン 4. ハディース（預言者の言行録） 5. シャリーア（イスラーム法） 6. スンナ派とシーア派 7. イスラーム「原理主義」 8. イスラームの女性</p>
<p>[成績評価の方法] 授業中の小テスト、学期末試験。</p>				<p>[参考文献] 東長靖『イスラームのとらえ方』（世界史リブレット15、山川出版） 小杉泰『イスラームとは何か』（講談社現代新書）</p>
<p>[教科書] なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学（旧 経済学概論）	0 1	春学期集中	4 単位	一ノ瀬 篤
<p>[講義概要・学習目標] 経済学というよりは「経済知識」を身につけてほしい。以下の順序および内容で講義を進める。 (1) 経済生活の基礎：生産、貯蓄・消費 (2) 経済体制：封建制度、資本主義制度、社会主義制度 (3) 資本主義経済 ①経済の成長と停滞 ②国民所得統計の見方 ③貯蓄と投資の関係：その重要性について ④輸出と輸入：国民経済と貿易 ⑤国際収支と為替相場 ⑥金融および金融政策の役割 ⑦財政の役割</p>	<p>[講義計画など] ほぼ毎回、講義レジメを配布して、これに基づいて説明する。経済学は、誰にも近づきやすいよううで、いざ理解しようとする、意外に困難な学問である。 何よりも分かりやすい講義を心がけたい。また、現実生活に役立つように、基本統計の見方の解説に時間を費やしたい。 大学時代に、専門分野に関する基礎知識を身につけよう。</p>			
<p>[成績評価の方法] 中間・期末の他、何度か小テストを行い、これによって評価する。出席状況も考慮。</p>	<p>[参考文献] 講義の都度、指示する。</p>			
<p>[教科書] なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学（旧経済学概論）	0 2	春学期集中	4 単位	滝 田 和 夫
<p>[講義概要・学習目標] 初めて経済学を学ぶ学生を対象とするこの講義では、経済学の最も基礎的な考え方をできるだけわかりやすく、かつ現実との関連を織り込みながら解説する。講義は3部から成るものとし、第1部は家計と企業の需要と供給、市場均衡を中心とするミクロ経済学、第2部は国民所得の決定、財政と金融、国際経済を中心とするマクロ経済学、第3部はそれらとは異なる経済の見方を提供するものとしてのマルクス経済学についてそれぞれ解説する。講義全体としては経済学の標準的な考え方を学ぶことを主眼としつつも、それにとどまらぬ多様な考え方が存在することも伝えたい。</p>	<p>[講義計画] はじめに I.ミクロ経済学入門 1.家計の商品需要と要素供給の決定 2.企業の商品供給と要素需要の決定 3.市場均衡 II.マクロ経済学入門 1.国民所得の決定 2.貨幣と金融 3.所得分析と貨幣分析の統合 4.物価と失業 5.国際経済 III.マルクス経済学入門 1.史的唯物論 2.階級と搾取 3.資本主義における自由と平等</p>			
<p>[成績評価の方法] 何度か行う小テストによる。出席をとるかどうかは未定。</p>	<p>[参考文献] 必要に応じて随時指示する。</p>			
<p>[教科書] 猪木武徳・鶴田忠彦・藪下史郎編 『入門・経済学』有斐閣</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学 (旧経済学概論)	03	春学期集中	4単位	野田知彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義の目的は、経済学の基本的な考え方を身につけることである。具体的な題材としては、進学、就職、賃金、雇用、失業、昇進、結婚などの生活に関わる身近な問題をとりあげる。これらの問題を経済学的に分析すればどのようなことがわかるのか、ということを経済学の基礎的な考え方から説き起こしていく。今年度は、最近問題となっている、若年失業の問題も取り上げてみたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義のはじめに支持する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回のテスト</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『労働経済学入門』大竹文雄 日経文庫</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学 (旧経済学概論)	04	秋学期集中	4単位	西川憲二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日常生活の中で、私達は日々いろいろなことを選択し決定をしている。このとき「お金」が大きな決定要因になっていることが少なくない。このことは、私たちが「経済学」に取り込まれていることを意味している。言い換えると、経済学とは、我々の選択を経済的側面から解き明かしていく学問である。そればかりではなく、経済学は、企業や国家の選択や行動を説明する。そこで、経済学から、個人・企業・国家を眺めることによって、私たちの生活と社会がどのように機能しているのか、これからの日本経済はどうなっていくのか考えてみたいと思う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>日本経済と世界経済の現状 マクロ経済学 貿易と為替レート ミクロ経済学</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、期末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義で紹介する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学	0 1	春学期集中	4単位	鬼塚光政
<p>[講義概要・学習目標] 市場経済が地球大の規模に浸透した現代では、その担い手である企業は、財貨・サービスの販売者・購入者として、人々への働く場と所得の提供者として、納税者として、地球環境悪化の原因者として等々、色々な側面で社会との係わりを深めています。 このように社会への影響力の大きい企業は、相互に激しい競争を展開しながら、人的・物的資源を使って財貨・サービスに変換し、社会に提供する経済活動を行うことを通じて、利益を追求しています。こうした企業の活動は、変化する競争環境に対応して展開されなければならないために、その構造と行動を絶えず変革・改善しなければなりません。しかも、現代の企業の活動は、多様な利害関係をもった人々と協働しながら展開されなければなりません。 講義では、上述のように、社会と密接な係わりをつ存在意義が極めて大きく、環境の変化に対応して常に変革・改善を行いながら、存続を図っている企業の構造と行動の概要を考察することに致します。</p>	<p>[講義計画] 1. オリエンテーション 2. 企業と社会 3. 環境変化と企業経営 4. 企業の形態(株式会社を中心に) 5. 企業の目的 6. 企業の戦略 7. マーケティング 8. 生産とその管理 9. 資金の調達と運用 10. 人的資源管理 11. 経営の国際化・グローバル化</p>			
<p>[成績評価の方法] 期末試験の成績に、レポートの成績、ノートの整理状況(期末提出)などを加味する。</p>	<p>[参考文献] ① 教科書に記載 ② その他は必要に応じて指示 ③</p>			
<p>[教科書] 片岡信之・斉藤毅憲・高橋由明・渡辺竣著 『初めて学ぶ人のための経営学』文真堂</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学	0 2	秋学期集中	4単位	小林哲夫
<p>[講義概要・学習目標] Normann & Ramirez, <i>Designing Interactive Strategy</i>, Zell, <i>Changing by Design: Organizational Innovation at HEWLETT-PACKARD</i>, Liker, Fruin, Adler 編, <i>Remade in America</i> などに紹介されているケースを教材として用いながら、経営戦略、経営組織ないし組織変革、新製品開発、日本的経営の海外移転などの経営学のトピックスについて学習する。</p>	<p>[講義計画] おおむね次の順序で講義を行う。 (1) Normann & Ramirez の著書に紹介されている IKEA, Ryder System, デンマークの薬剤店、フランスの公益企業 <i>Campagne Générale des Eaux</i> グループ及び <i>Lyonnaise des Eaux Dumez</i> グループのケースを中心に経営戦略について学習する。 (2) Zell の著書及び日本の論文で紹介されているヒューレット・パカードや日産のケースを中心に組織変革について学習する。 (3) 新製品開発について日本のケースを中心に学習する。 (4) NSK (日本精工) のケースを中心に日本的経営の海外移転について学習する。</p>			
<p>[成績評価の方法] 常時の演習やレポートを重視する。</p>	<p>[参考文献] 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』(日本経済新聞社)</p>			
<p>[教科書] 授業中に資料を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社 会 学	0 1	春学期集中	4 単位	北 川 紀 男
<p>[講義概要・学習目標] この講義は、はじめて社会学を的に学ぼうとする人々に、基礎的な知識を提供することにある。そこで先ず、社会学とはどういう学問であるのかを、その研究対象、考え方、その学問の特徴を概説することから始める。その上についで、家族、地域社会（農村と都市）、職場（会社と組織）と云った具体的な日常生活の場を取り上げて考察する。ついで、激しく変動する現代社会を捉える視点として社会変動の問題や、社会調査をはじめとする社会学の研究方法に触れるつもりである。</p> <p>社会学は、方法としての社会学(Soziologie als Methode)とも呼ばれ、その研究方法は、他の社会科学や人文科学からも関心をもたれ、大いに利用されている。従って、社会学は、経済学、経営学、法学、文学を学ぼうとする者にとっても有用であるから真剣に受講して欲しい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>①社会学とはどういう学問か ②社会学の研究対象 ③社会学的な者の見方 ④家族 ⑤農村 ⑥都市 ⑦職場 ⑧組織 ⑨労働 ⑩社会変動 ⑪社会調査 ⑫社会問題</p>			
<p>[成績評価の方法] 主に、期末テストとレポートに基づいて評価するが、出席状況も加味する。</p>	<p>[参考文献] 北川紀男『文化社会学研究』1999年（八千代出版） その他の参考文献や資料については、その都度紹介する。</p>			
<p>[教科書] 秋元律郎・石川晃弘・羽田新・袖井孝子著『社会学入門（新版）』1995年（有斐閣新書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学 社会学の展開と現代の日本社会	0 2	秋学期集中	4 単位	鈴 木 富 久
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「社会学」は19世紀に生まれて以来今日まで、多様な方法論的立場から多様な再定義、再構成が試みられ、20世紀において質量ともにめざましい発展を遂げてきた。そのため、今日「社会学」と言っても、そこには方法論的立場を異にする多様な「社会学」の流れが存在している。そこで本講義は、まず、相次いで登場し現代社会学の基礎をつくりあげてきた主な諸潮流について、その展開を明らかにし、理論と方法の面から社会学への理解と関心の喚起に努めたい。その上で、後半においては、日本社会の現実をとりあげ、それを「企業社会」とその危機・再編過程として把握する視点から、その全体構造と社会諸領域の問題状況を明らかにする。以上を通じて社会学とは何かに答え、現実分析の用具としての社会学の理論の役割や問題・課題等についても考えたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序. 社会学とその展開</p> <p>第Ⅰ部 現代社会学の理論的基礎</p> <p>§ 1. コントとスベンサー：実証主義社会学 § 2. マルクス：史的唯物論と資本主義分析 § 3. ウェーバー：「理念型」と「理解社会学」 § 4. デュルケーム：方法論的集合主義の社会学 § 5. ミードとシュッツ：象徴的相互作用論と現象学的社会学の起点 § 6. パーソンズ：社会システムと「社会」 § 7. グラムシ：「ヘゲモニー」と国家・社会変革</p> <p>第Ⅱ部 「企業社会」日本の構造と危機</p> <p>§ 1. 戦後高度成長と「企業社会」の成立 § 2. グローバリゼーションと戦争 § 3. 日本の人口諸構成：地域・階級・年齢 § 4. 福祉 § 5. 労働 § 6. 教育 § 7. ジェンダー § 8. 治安 § 9. 政治と軍事 結. 社会学の課題</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主として試験の成績による。 但し、期間中に適宜、小試験を実施することがある。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>小林・大関・伊藤・鈴木・竹内『人間再生の社会学理論』創風社 松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社 暁峻子『豊かさの条件』岩波新書 見田宗介『現代社会の理論—消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書 宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫 ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店 ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり） 渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』（全4巻）大月書店 浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣。 古典・基本文献、その他は教科書『社会学講義ノート』140-141頁を参照</p>			
<p>[教科書]</p> <p>鈴木富久『社会学講義ノート〔新訂〕』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学	03	秋学期集中	4単位	竹内 真澄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会学は、社会の総体把握をめざす学であるという立場から講義をおこなう。こうなると、どうしても対象がとめどなく広がり、けっきょく膨大な情報量からなるモンスターとなる可能性がある。</p> <p>こういうグランドセオリー化をできるだけ回避するために、昔 Th. アドルノと M. ホルクハイマーが試みたような一種の「社会学事柄辞典」のようなものを構想し、人間と社会に関するドラマをいくつかの「お話」にしてみようかと思っている。</p> <p>つまり、社会学が何であるかというよりも、あれこれの「話」が印象に残ったというようなことを重視して、組み立てるのだ。</p> <p>こういうことをインプットするのなら、後になって社会学というのはいったいこういうことだったのではないかと、思ってもらえるのではないだろうか。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>以下のようなドラマを考えている（テーマによって複数回必用）。</p> <p>第一分</p> <p>1. 個人と社会 社会学の原テーマ</p> <p>第2部 芸術への社会学的アプローチ</p> <p>2. ジャック・ロンドン「荒野の叫び」の文明批判</p> <p>3. 黒澤明「デルス・ウザーラ」の文明批判</p> <p>4. 井上ひさし「父と暮らせば」の戦後民主主義論</p> <p>5. 山田太一「日本の面影」の近代化批判</p> <p>6. トニ・モリスン「青い眼が欲しい」の社会化論</p> <p>第3部 北歐型社会とアメリカ型社会の対決</p> <p>7. デンマークの暮らしの豊かさ</p> <p>8. T・H・マーシャルからエスピノーザ＝アンデルセンへ</p> <p>9. 福祉国家と社会権</p> <p>10. E・サイードのアメリカ論</p> <p>11. H・ジンの「ソーホーのマルクス」</p> <p>12. N・チョムスキーと9. 11</p> <p>13. Ch. ピアードのアメリカ憲法論</p> <p>14. R・ノージックの最小国家論</p> <p>第4部 日本近代への眼差し</p> <p>15. 「啓蒙の弁証法」と明治維新</p> <p>16. 植木枝盛のフェミニズム</p> <p>17. 矢内原忠雄「台湾論」の課題</p> <p>18. 鈴木栄太郎の朝鮮自然村研究</p> <p>19. 丸山眞男の市民社会論</p> <p>20. 藤田省三の全体主義批判</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験で評価するが、レポートを課すこともあるので、その場合は両者を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ハワード・ジン著竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房</p>			
<p>[教科書] 竹内真澄『福祉国家と社会権』晃洋書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	01	春学期集中	4単位	吉見 研次
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、受講者が現代日本法の概観を得るとともに、市民生活に特に関係の深い法律知識を身に付けることを目標とする。そこで、まず現代日本法を三大別し、公法分野（憲法、刑法、国際法等）、私法分野（民法、商法等）、社会法分野（労働法等）、のそれぞれにつき概略を説明する。そのうえで、私法分野の中でも特に日常の市民生活に密接に関わる各種の法制度（売買その他各種の契約に関する法、事故と損害賠償に関する法、家庭生活に関する法）を順次取り上げて解説する。</p> <p>なお私語は厳禁。その他受講時の留意事項につき、最初の授業の際に言及する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I 現代日本法の概観 (1)公法分野 [憲法、刑法、国際法等]、(2)私法分野 [民法、商法等]、(3)社会法分野 [労働法等]</p> <p>II 契約の法律 (1)契約法序論 [成立と効力、無効と取消]、(2)契約法各論 [売買契約、金銭消費貸借契約、借家契約等]、(3)私法の原理と契約</p> <p>III 事故と損害賠償の法律 (1)不法行為の要件 [一般、特殊、特別法]、(2)不法行為の効果</p> <p>IV 家族の法律 (1)夫婦の法律 [結婚、離婚]、(2)親子・扶養等の法律、(3)相続の法律 [法定相続、遺言]</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>正誤文選択等の短答式の学期末テストを予定している。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>奥田昌道他編『コンパクト六法 平成16年版』（岩波書店）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法 学	0 2	秋学期集中	4 単位	寺 田 友 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>概 要 市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。 私語・遅刻は厳禁。 なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。 	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会生活と法 2 憲法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本原理 2) 基本的人権 3) 地方自治 3 民法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 総則（成年後見を含む） 2) 物権 3) 契約 4) 不法行為 5) 親族 6) 相続 4 行政法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 行政行為及び行政手続 2) 行政不服審査 3) 行政訴訟 4) 情報公開 5) 地方行政組織 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的には、期末テストで成績評価を行うが、出席、授業時間に行うテスト・チェックペーパー等を評価に加味する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>野崎和義『福祉のための法学』（ミネルヴァ書房 2002年） 『ポケット六法 平成17年版』（有斐閣 2004年10月発行）</p>	<p>[参考文献]</p> <p>樋口陽一『憲法と国家』岩波新書 星野英一『民法のすすめ』岩波新書</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲 法		秋学期集中	4 単位	松 田 聰 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>憲法の基礎を身近な例から習得することを目標にする。憲法が「最高法規」であり「人権の法」であるとの理解を深めていくことになるが、日本国憲法のほか諸外国の憲法も素材にしていく。講義は統治機構論と人権論とに大別してすすめていく。統治機構論ではとくに司法制度を、また、人権論では、自己決定論とその責任を基本的な視点として考察していく。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代憲法から現代憲法へ 2. 日本国憲法の成立と特質 3. 国民主権 選挙制度 4. 国民主権 国民投票制度 5. 国民主権 天皇制 6. 権力分立 国会の地位と権能 7. 権力分立 議院内閣制 8. 権力分立 司法制度の現状 9. 権力分立 司法制度のこれから 10. 人権思想の系譜 11. 人権論の課題 新しい人権 12. 人権論の課題 思想・良心の自由 13. 人権論の課題 死刑制度 14. 人権論の課題 平等原則 15. 人権論の課題 自己決定権 16. 人権論の課題 信教の自由 17. 人権論の課題 表現の自由 18. 人権論の課題 社会権 19. 平和主義 20. 戦後改憲論の系譜 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に行う論述試験で判断</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中谷実『ハイブリッド憲法』勁草書房 粕谷友介ほか『憲法』青林書院 佐藤幸治『憲法』青林書院 佐藤功『日本国憲法概説』 松井茂樹『日本国憲法』</p>			
<p>[教科書]</p> <p>参考文献のほか、とくに用いない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
政治学		春学期集中	4 単位	村 山 高 康
【講義概要・学習目標】 政治学の内容は多岐にわたり、またその定義も一言では定め難い。そこで本講義は、以下のような限定された内容で進める。 前半は、時代を近代に限定し、地域的には西欧の政治思想や学説を背景にして、国家の特質や近代デモクラシーの原理を中心に論じる。単なる過去の問題ではなく、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考えるための基礎的な講義を目指す。講義は近代西欧の歴史的背景をたどりつつ行うので、歴史への興味をもって受講されたい。 後半は、大変動の時代を迎えた現代世界の政治的課題を、国際政治システムの形成と変遷、近代主権国家の変貌、民族紛争や環境問題、現代の政治思想、日本の行政機構や政策形成などを、多面的にとりあげて考察する。多くのテーマをとりあげるが、現代世界の様々な政治的課題の底に流れる本質的な問題をクローズ・アップできるような講義を行う。 前半と後半では講義スタイルは異なるが、学説・理論・思想・制度など抽象度の高い前半の講義を十分に咀嚼することが重要である。	【講義計画】 1. 近代国家の成立と新たな政治原理の創出 2. 近代国家の発展と近代デモクラシーの形成 3. 近代国家における政治制度の発達 4. 近代市民社会と市民政治理論の成立 5. 日本の政治—近代化の諸問題 6. 国際政治システムの形成と変遷 7. 現代世界における主権国家の変貌 8. 民族紛争・南北問題・環境破壊などへの国際政治学的アプローチ 9. 現代世界の政治思想の諸潮流 10. 日本の政治—行政機構と政策決定過程の分析			
【成績評価の方法】 レポートおよび論述試験による評価	【参考文献】 講義の中で随時指示する			
【教科書】 特定の教科書は使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然科学（生物学Ⅰ）（旧自然環境論）		春学期集中	4 単位	巖 圭 介
【講義概要・学習目標】 バイオテクノロジーの台頭と環境問題への注目により、生物学は 21 世紀の社会でよくも悪くも中心的な位置を占めることになる。遺伝子や生態系に関する正しい理解がなければ、さまざまな社会問題に正しく対応し判断をくだすことは難しい。この時代に対応するためにも、生物というものの基本を正しく理解しておいてほしい。 生物の基本、それはすべての生物が 37 億年にわたる生命の進化の産物であるということ。進化という現象を抜きにして生物のいかなる側面も語ることはできない。にもかかわらず、現在の高校までの理科教育では進化をまともに扱うことがなく、結果として進化を正しく理解しているものはぎわめて少ない。 この授業では、進化とそのメカニズムの正しい理解を目標とする。その上で、進化を軸にして生命現象のいくつかの重要な側面について概説する。	【講義計画】 ときおり時事問題なども絡めながら、おおむね以下のテーマを扱う予定 ・なぜ地球に生物がいるのか ・なぜ生物は進化するのか ・なぜ性があるのか ・なぜ利他的にふるまえるのか ・なぜ滅びゆく生物を守るのか			
【成績評価の方法】 テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）や小テスト、および期末試験により判定する（詳細は初回講義にて説明）	【参考文献】 酒井聡樹ほか『生き物の進化ゲーム』共立出版 1999年 桑村哲生『生命の意味』裳華房 2001年 長谷川眞理子『進化とはなんだろうか』岩波ジュニア新書 1999年 ワイナー『フィンチの嘴』早川書房 2001年 長谷川眞理子『クジャクの雄はなぜ美しい？』紀伊國屋書店 1992年 ドーキンス『利己的な遺伝子』紀伊國屋書店 1991年			
【教科書】 とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然科学（数学入門）（旧経営基礎数学）		秋学期集中	4単位	牧 野 丹奈子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、大学や社会に必要な数学の基礎を学ぶことを目的とする。文系のための大学数学入門というべき内容を目指したい。高等学校までに学んだ数学の内容が、人によって大分違っているようである。このことを考慮し、高等学校までの復習も行う。講義ごとに練習問題を提示し、理解が深まるようにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>以下の内容を講義する予定であるが、進捗に応じて調整する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校までの数学の復習 2. 集合 3. 論理 4. N進数 5. グラフと方程式 6. 場合の数 7. 確率 8. その他 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験および出席などの総合評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義（スポーツの歴史） （旧近代体育・スポーツ史）		秋学期集中	4単位	高 橋 ひ と み
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代社会において重要な生活文化として取り入れられている「体育・スポーツ」の歴史を、古代エジプト・ギリシャ・ローマまで遡り、政治や経済、社会環境との関連から学習する。 「体育・スポーツ」の歴史を知ることは、「体育・スポーツ」の現在をより理解することにつながり、過去・現在を理解することは、今後の「体育・スポーツ」の進むべき道の教示となると考える。 激動する現代社会の中で、「体育・スポーツ」のあり方を（自己の中で）確立していくことを目的とし、その目的達成のために本授業において学んだことを役立ててほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代の体育・スポーツ <ol style="list-style-type: none"> ①エジプト ②ギリシャ ③ローマ 2. 中世の体育・スポーツ 3. ルネッサンス時代の体育・スポーツ 4. 近代の体育・スポーツ <ol style="list-style-type: none"> ①ドイツ ②イギリス ③スウェーデン ④フランス ⑤アメリカ ⑥日本 5. 現代の体育・スポーツ 6. オリンピック・パラリンピック・スペシャルオリンピックス 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験・小試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>高橋ひとみ（編著） 「体育・スポーツ史」 西日本法規出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義 (スポーツ科学) (旧スポーツ科学)		春学期集中	4単位	今西俊次
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>スポーツ科学は人間そのものをあつかう総合科学であり、近年この分野の発展には著しいものがあります。その成果には、たんに「強く・高く・速く」という、一握りのトップアスリートだけのものではありません。健常者にとってももちろんのこと、障害者や中・高年にとって有効なものです。</p> <p>本講義では、スポーツが生体に与える影響と体力がスポーツの成果に与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について理解を深めてください。また、スポーツの国際大会、MLB等に関する話題を取り上げ、スポーツの今日の問題についても考えてみます。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動と骨格筋・神経系 2. 運動と呼吸・循環系 3. 運動と発育・発達 4. 運動と環境 5. 運動と身体組成 6. 運動と疲労 7. 運動と栄養 8. ドーピング 9. 体力と体力測定 10. トレーニングの基礎理論 11. トレーニングの種類と方法 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート(コメント)、テストなどにより総合的に評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業の進行に合わせて連絡します。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
健康・スポーツ学講義 (生涯スポーツ論)		春学期集中	4単位	高橋ひとみ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>高度経済成長により、生活は便利で豊かになった。反面、生活の機械化・省力化が進み、様々な電化製品や自家用車の普及により、日常生活において身体を動かす機会が減少し、「運動不足病」が人々の健康を蝕む結果となっている。加えて、都市化や通信・交通の発達の人々の生活のリズムを崩し、心身のストレスを増幅している。</p> <p>激変する社会に適応して心身共に健康な生涯を送るためには、科学性に根ざした意図的・計画的な保健教育に基づき、家庭や地域における健康教育活動を活性化することが重要になってくる。</p> <p>健康生活をおくるうえで欠くことのできない「運動」「休養」「栄養」であるが、本講義においては、生涯を通じての「運動」について、特に留意して学習する。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念 2. 健康な生活と環境 3. 休養と健康 4. 栄養と健康 5. 体育とスポーツおよびレクリエーション 6. 心身の発達と体育 7. 遊びと生活 8. 家庭体育 9. 学校体育 10. 社会体育 11. 青年期・壮年期の体育 12. 社会の変化と健康生活 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験・小試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>「健康科学概論」 緒方正名編著 高橋ひとみ他著 朝倉書店</p>				

「健康・スポーツ学演習」クラス一覧

クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者
01		31	末野 幹敏	51	眞来 省二
02	藤木 泰治	32	吉井 泉	52	
03		33	見正 秀基	※ 56	今西 俊次
※ 04		34	浜口 雅行	57	児玉 公正
※ 06	高 成廈	35		61	見正 秀基
08		36	前山 直	62	
09	藤木 泰治	37	松浦 義昌	63	
※ 10	高 成廈	38		64	志水 正俊
11		39	末野 幹敏	66	
12	末野 幹敏	40	中神 勝	※ 67	今西 俊次
13		41	安居 良平	※ 71	高橋 ひとみ
※ 14	高 成廈	42		72	児玉 公正
※ 16	今西 俊次	※ 43	高橋 ひとみ	76	
21	安居 良平	44		77	
※ 22	今西 俊次	45	浜口 雅行	78	前山 直
26	吉井 泉	46	藤木 泰治	81	
27		47		82	中神 勝
28	辻井 義弘	48	松浦 義昌	83	児玉 公正
29		49	中神 勝	※ 86	高 成廈
30	眞来 省二	50	志水 正俊		

1. 学則上、この科目は「共通教養科目(4単位)」に位置づけられています。
2. 詳細については、「健康・スポーツ学演習要項」(新年度書類在中)を熟読してください。
3. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録(先着順受付)が必要です。

対象者：02・03・04(E・SS・SW・B・L・LE・LI)生は全クラス対象
 02・03・04J生は※印クラスのみ履修可です。他のクラスはできません。
 ※ 修得済みのJ生は登録できません。

日 時：02・03生 3月22日(月) 9:10～15:00(11:30～12:30は昼休憩)
 04生 4月6日(火) 9:10～15:00(11:30～12:30は昼休憩)

場 所：教務課窓口

申込方法：先着順に受付決定します。教務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

<注意>①学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

②申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限を確認し、当日クラス番号が言えるよう準備しておいてください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
学際科目(都市とは何か?)		春学期集中	4単位	芝村篤樹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「都市とは何か」を考えることは、「神とは何か」を考えるのと同様むつかしいと言われる。しかし、日本の総人口の80%が都市に住み、その多くは都市で生涯を送るのが普通となった今日、都市とは何かを知ることの重要性は増している。この講義では、都市についてのさまざまな定義を考え、世界の都市を歴史的に概観してみたい。その上で、現代都市の抱える問題・課題を明らかにしていきたい。すなわちこの講義は、都市をキーワードに、世界の歴史と現状について学ぼうとするものである。</p> <p>講義場は、教員と学生が学問を通して切り結ぶ真剣勝負の場である。当然のことではあるが、講義に集中し私語は一切しないことを期待する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市とは何か? 都市についてのさまざまな考え方を紹介する。 2. 歴史の都市 世界の都市、日本の都市の歴史を概観する。 3. 日本の都市の特質 とくに歴史のなかから、日本の都市の特質を見出しそれについて考える。 4. 都市の今 都市の現状と問題・課題について考える。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>日常的な4回程度の小レポート、1回のレポート(2000字程度)、それに試験を総合しておくこと。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくに無し。必要に応じレジュメ・資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義(変容する雇用の世界) (旧労使関係論 97～01生対象)		秋学期集中	4単位	原 田 達
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この国の現在は苛酷な競争社会である。きみたちが経験した受験、やがて経験するはずの就職、その先にある昇進、さらには日常的なライフスタイルや趣味においてさえ、わたしたちは苛酷な競争に巻き込まれている。そこには、この競争社会を生き抜いていこうとする覚悟と知恵があると同時に、わたしたちをこの競争に追い立てている社会的メカニズムが存在する。まずこのことをおさえておきたい。</p> <p>この国が苛酷な競争社会であるという前提のもとに、現在進行中の雇用関係の変容について考えたい。就職形態の変化、人事政策の新たな展開、さらには人びとの職業意識の変容などに目を向けたいと思う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業人間の日常 2. ふたつの競争 3. 人事考課と職場 4. 変容する雇用慣行 5. 競争の原理 6. 受験という競争 7. 就職競争 8. 昇進をめぐる競争 9. フリーター 10. 女性の問題 11. 過労死 <p>おわりに</p> <p>*ただし、あくまでも計画です。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験をします。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義のなかで指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義(文化財保護の諸問題) (旧博物館学特講(文化財保護の諸問題))		秋学期集中	4単位	井 上 敏
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>本学には学芸員を目指す学生のために、学芸員課程が設置されている。そこで教えらることは非常に限られた内容にすぎず、博物館や文化遺産の保護という深く広い分野からすれば、学芸員課程の科目を補完する必要がある。そのために、本講義を開講する。</p> <p>一口に文化遺産保護といっても様々な分野からのアプローチがあり、考古学や美術史といった人文科学の学問領域だけでなく、自然科学や社会科学といった、普通一般に文化遺産関係の学問分野と考えられていない領域からの文化遺産保護というものも取り上げ、「文化遺産を保護する」ことがいかに重要であり、また難しいものかを知ってもらう。そして今後の文化遺産保護とはどのように考えていくべきかを学生諸君に考えてもらうことを目的とする。</p> <p>尚、本講義では文化遺産保護の実態を見るために、関係機関を見学する予定である。現段階ではお願いしている機関の都合もあり、変更の可能性もあるが、2003年度は以下の機関で実施した。またこの講義での見学にかかる交通費・入館料等の経費は学生の自己負担である。それができない学生は受講を遠慮していただきたい。</p> <p>① 奈良国立博物館・文化財修復研究所 ② 弥生文化博物館・特別史跡池上曽根遺跡 ③ 京都造形芸術大学歴史遺産研究センター ④ 大手前大学史学研究所オープンリサーチセンター・辰馬考古資料館 ⑤ 奈良文化財研究所・特別史跡平城宮跡</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>スケジュール(※あくまで現段階での予定。諸事情により変更の可能性あり。)</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 文化遺産保護と博物館 第3回 埋蔵文化財保護の諸問題 第4回 弥生文化博物館・特別史跡池上曽根遺跡の見学 第5回 考古学の基礎理論(1) 第6回 考古学の基礎理論(2) 第7回 奈良文化財研究所・平城宮跡等見学 第8回 日本の文化遺産保護にかかわる人材養成の諸問題 第9回 保存科学の基礎知識 第10回 「保存科学の諸問題(1)」ゲストスピーカー 第11回 辰馬考古資料館・大手前大学史学研究所オープンリサーチセンターの見学 第12回 京都造形芸術大学歴史遺産センターの見学 第13回 「保存科学の諸問題(2)」ゲストスピーカー 第14回 文化遺産保護の国際的な問題について 第15回 世界遺産条約について 第16回 日本の文化遺産保護の歴史 第17回 外国の文化遺産保護の歴史 第18回 奈良国立博物館・文化財修復研究所の工房見学 第19回 日本の文化財保護政策の諸問題(1) 第20回 日本の文化財保護政策の諸問題(2) 第21回 まとめ(1) 第22回 まとめ(2)</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席を含む受講態度とレポート</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>川村恒明 監修・著/根木 昭・和田勝彦 編著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて』(東海大学出版会)</p> <p>その他適宜指示する。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>適宜指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義(映像社会学入門)		春学期集中	4単位	中 村 秀 之
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>現代社会は映像に満ちています。どのような映像でも真空に浮いているわけではありません。それらは何らかの形で社会のなかに位置を与えられ、社会的に構成され、社会のなかで意味と価値を与えられています。しかし映像は、そのような社会性から逸脱する力を潜在的に持っています。このような(反)社会的存在としての映像について理解を深めることが、この授業の目標です。</p> <p>そのために、この授業は大きく3つの部分から構成されます。</p> <p>第一に、さまざまな映像自体の技術的な特性とその社会的な、そして反社会的な特性を考えます。第二に、映画を中心に、映画作品がそれ自体、どのような社会的な要因によって構成され、あるいはそれに抵抗しているのかを具体的に分析します。第三に、個々の映画作品が社会的諸関係のなかで、どのような意味を与えられ、どのように利用されているか、その政治的力学とそこから逸脱する映像の力を事例に即して論じます。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>第1部 映像の存在論。 銀塩写真、映画、テレビ、ビデオ、デジタル映像の技術的特性と社会的存在の諸様態。</p> <p>第2部 (映画の構造)の社会学。 映画の基本要素や基本技法(ショット、フレーム、カメラ移動、クローズアップ、編集、音声など)における規則と逸脱。</p> <p>第3部 映画の政治学。 社会的存在としての映画をめぐる(における)さまざまな葛藤。検閲、集合的記憶の形成、世界認識の戦略、差別と統合など。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席・中間レポート・期末試験によって評価します。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>授業中に適宜指示します。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>長谷正人・中村秀之(編著)『映画の政治学』(青弓社、2003年)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義 経済と人間		秋学期集中	4単位	面 地 豊
[講義概要・学習目標] 近年我が国経済状況(市場経済状況)の好転は、経済状況が他の状況、特に文化、社会等と支離している。このことは、人間(生活)に与える重大な問題を生み出している。自分の人生を見つめ直すためには、市場経済状況の認識が大切である。この講義は、この認識を、学生にも明確に認識させることである。 (その目標は)		[講義計画] 次の順序に依り講義する。 1. 経済とは何か？ 2. 経済と社会 3. 経済と経営 4. 豊かさとは？ 5. 生きか		
[成績評価の方法] 1-ト(提出) 40点 論文 60点		[参考文献] その程度検索する。		
[教科書] 1-ト講義政、教科書は使用する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
共通教養特別講義 (日本と世界) Japan and the World: Domestic Politics and External Policies		秋学期集中	4単位	Prof. Masahiro Matsumura
[講義概要・学習目標] English is used as the instructional language. Every student has to be fully prepared to participate in this seminar-style course, and is thus required to read, discuss, and write solely in English. This course is designed to match the needs and interests of foreign exchange students. The first half of this seminar will focus on the Japanese identity, political culture, and political system, as related to the rise and stagnancy of Japan. The second half of the seminar will examine Japan's external policies in national security, trade, and ODA. This course is intended to provide students with some basic understandings of the Japanese political economy, its external policies, and the interplay between the two.		[講義計画] I. The Domestic Politics 1) The Japanese Identity: a historical and geo-strategic perspective 2) The Political Culture 3) The Political System 4) Discussion II. External Policies 1) National security and defense 2) Trade 3) ODA (Official Development Assistance) 4) Discussion		
[成績評価の方法] 1) participation 20% 2) presentation 20% 3) take-home essay I 30% 4) take-home essay II 30%		[参考文献] Edwin O. Reischauer, THE JAPANESE TODAY: CHANGE AND CONTINUITY, The Belknap Press of the Harvard University Press, 1988. Karel van Wolferen, THE ENIGMA OF JAPANESE POWER: PEOPLE AND POLITICS IN A STATELESS NATION, MacMillan, 1989. Gerald Curtis, THE JAPANESE WAY OF POLITICS, Columbia University Press, 1988.		
[教科書] A detailed course syllabus will be distributed before the beginning of the fall semester. Reading assignments will include three books and some 30 articles from academic and policy journals, such as FOREIGN AFFAIRS and THE WASHINGTON QUARTERLY.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法A (旧民法I)		春学期集中	4 単位	清 原 泰 司
【講義概要・学習目標】 民法（厳密には「民法典」という）は、市民（私人）と市民（私人）との間の法律関係を規律する基本法であり、私たちの日常生活と最も密接な関係を有する法律である。 民法は1898年（明治31年）に施行されたが、その中の財産法の分野である第1編「総則」、第2編「物権」および第3編「債権」はほとんど改正されていない（これに対し、家族法の分野である第4編「親族」および第5編「相続」は、男女平等・個人の尊重の観点から1947年に全面改正された）。それは、わが国が私有財産制度を採っているからである。それゆえ、民法を学ぶことは、日常生活に役立つだけでなく、社会的法的仕組みを理解することにもなるでしょう。 この科目では、民法の「総則」を中心として講義するが、必要な範囲で「物権」や「債権」についても触れる。	【講義計画】 下記のテーマの中の重要論点について講義する。 1 民法とは？ 2 民法の基本原則 3 権利の主体（その1—自然人） 4 意思能力と行為能力 5 権利の主体（その2—法人と民法上の団体） 6 権利の客体（物） 7 法律行為（契約） 8 意思と表示の不一致 9 代理（有権代理、無権代理、表見代理） 10 無効と取消 11 時効			
【成績評価の方法】 小テスト（月1～2回程度）および期末テストの結果を総合評価する。	【参考文献】 三和一博 編『演習ノート 民法総則・物権法〔全訂版〕』（法学書院）			
【教科書】 清原泰司ほか著『ファンダメンタル法学講座 民法1 総則』（不磨書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法B (旧民法II)		秋学期集中	4 単位	清 原 泰 司
【講義概要・学習目標】 民法という法律（「民法典」という）は、権利を、物（不動産や動産）に対する権利である「物権」と、人に対する権利である「債権」とに大別している。この科目では、物権の変動（土地や建物を売買した場合に、所有権という物権が、売主から買主に移ること）に伴う法律問題を中心に講義し、必要な範囲で債権にも言及する。また、債権を優先的に回収するため、債務者又は第三者が所有する「物」に設定される担保物権についても触れる。 講義はできるだけ具体的事例を交えながら行うが、物権法や債権法を理解するためには、民法総則の諸制度についての理解が不可欠なので、是非、「民法A」を履修してほしい。	【講義計画】 下記のテーマの中の重要論点について講義する。 1 物権とは？—債権との相違 2 不動産の物権変動 3 動産の物権変動 4 善意取得 5 占有権 6 所有権 7 用役物権—地上権、永小作権、地役権、入会権 8 担保物権（典型担保）—留置権、先取特権、質権、抵当権 9 非典型担保—譲渡担保			
【成績評価の方法】 小テスト（月1～2回程度）および期末テストの結果を総合評価する。	【参考文献】 三和一博 編『演習ノート 民法総則・物権法〔全訂版〕』（法学書院）			
【教科書】 清原泰司ほか著『ファンダメンタル法学講座 民法2 物権法』（不磨書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日 本 史	0 1	春学期集中	4 単位	寺 木 伸 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、日本の歴史をいくつかの柱を立てて重点的に述べていくことになるが、その際、民衆の視点、とくに差別され迫害されてきた民衆の視点で従来の日本史を見直していくよう努力したい。そのことにより、いままで隠されてきた真実や埋もれてきた史実が少しずつ明らかになっていくと思う。</p> <p>歴史とは、単に過去のことを興味本位に断片的に知るのではなく、現在を理解するためにこそ過去の事柄を系統的に理解し、研究することである。日本史を大きな流れにおいて理解できるように工夫をしていきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史とは何か 2 歴史の見方 3 人類と日本人の起源 4 縄文・弥生時代の社会と文化 5 古代国家と身分制度およびケガレ観念 6 中世文化と被差別民衆 7 近世身分制社会と被差別部落 8 明治維新と近代化——その光と影—— 9 近代国家と戦争・植民地支配と差別 10 戦後日本の歩みと課題 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に実施する試験の成績を基本にして出席点（適宜、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>安達五男・寺木伸明他編『人権の歴史——同和教育の手引——』山川出版社</p>				

共通自由
02~

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	0 2	通 期	4 単位	三 宅 正 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>古代から現代までの日本歴史の展開を身分制の変遷を基軸にして追究する。基本史料の読解を重視する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人権と身分制 (2) 世界史上の良賤制 (3) 古代律令制国家・王朝国家と身分制 (4) 中世荘園制国家と身分制 (5) 近世幕藩制国家と身分制 (6) 近代天皇制国家と身分制 (7) 現代民主制国家と身分制 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めれば単位取得は容易。欠席したり授業に集中しなかったりすれば単位取得は困難である)</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中にそのつと紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>資料を配付する。ただし、配付時に出席していた人に1回限りで配付する。そのとき欠席していた人に追加配付は行わない。資料を持参するのを忘れたりなくしたりした人に対する再配付も行わない。毎時資料を持参しなくては授業理解は困難である。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	01	通 期	4 単位	山 崎 充 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史学習とは、年号と歴史的な事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけで以てこと足りるものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。</p> <p>この講義では、まず、担当者が、「歴史的なものの見方とは何か」について述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>・担当者の講義 総論： 1、歴史研究の持つ問題性 2、ヨーロッパ中心史観の問題性 3、現代史をどう解釈するか。 4、歴史学における「政治的なるもの」 各論： 5、ヨーロッパにおける反ユダヤ主義～ドレフュス事件など 6、ナチのユダヤ人政策の背景と実態 7、ユダヤ人大量虐殺をめぐる戦後の論議 ・ビデオ上映 歴史教育、ナチズムなどに関するビデオを複数回観てもらおう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績評価は、定期試験のみで行う。 この講義では、出欠は一切とらない。従って、出席カード配布だけを目標に教室に来て時間も労力の無駄に終わるのである。授業中の私語、携帯電話等の使用、居眠り、漫画などを読むことは絶対に許さない。 受講態度が悪い場合、退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。</p> <p>[教科書] 特定の教科書は使用しない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。</p> <p>・栗原 優、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策 -ホロコーストの起源と実態』ミネルヴァ書房 ・西岡昌紀、『アウシュウツ「ガス室」の真実』、日新報道 ・ハーバーマス、ノルテ他著、『過ぎ去ろうとしない過去 ナチズムとドイツ歴史家論争』、人文書院</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	02	秋学期集中	4 単位	坂 昌 樹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>これは教職を中心にした授業です。 社会科教育をおこなううえで必要な考え方や教え方に重点をおいた授業をします。過去と現在をさまざまな視点から比較し、歴史をいかに学ぶべきか、また歴史からなにを学べるか一緒に考えていきたいと思います。 授業では、教育実習にあわせた高校用教科書を使っての模擬授業や、ビデオを見て感想文を提出していただき、それにもとづいた議論などをおこないます。おもに教員免許の取得をめざす学生の参加が望まれますが、授業へ積極的に参加する気のある方ならどなたでも歓迎します。 学ぶテーマとしては西洋史をおもな対象とし、近代化の歪み（排他的民族主義など）や現代社会の諸問題（外国人労働者など）、さらに歴史教育上の諸問題（教科書問題など）を予定しています。しばしば現代の社会状況にも言及しますが、これらの問題の歴史的背景の考察や、歴史的に類似の問題の検討ができればよいと考えています。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. 導入：外国史の課題 II. 教育実習に向けて ① 模擬授業 高校『世界史』の教科書とその教育方法の検討 III. 過去から現在への歴史的連続性を考える（ビデオを利用） ① 社会的マイナリティーの歴史 ユダヤ人、移民、難民、外国人労働者 ② 歴史教育を考える 歴史教科書と歴史観の問題 (状況によっては、IIとIIIを入れ替えるかもしれません。)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への積極的参加（模擬授業やビデオ感想文の提出）と学年末試験（受講者が少数ならレポート）などにより総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『詳説 世界史』（高校用世界史教科書B）山川出版社 連絡先：（研究室）アンデレ館 7 階 725 室 (tel) 0725-54-3131（内線）3725 (Email) ban@andrew.ac.jp 面談：在室中は、随時可能です。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋史	01	春学期集中	4単位	串田久治
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>以史為鑑、察往知来－歴史から何を学ぶか</p> <p>今に伝わる多くの歴史書のひとつに、宋の司馬光が著した歴史書『資治通鑑』がある。これは読んで字のごとく、過去の歴史を来るべき時代の治に資し、人間の鑑とするという歴史観である。ただ、歴史を鑑戒とする考え方は司馬光だけのものではなく、中国では古代から伝統的に受け継がれたものである。今も「史を以て鑑と為し、往を察して来を知る（人間の歴史を鑑とし、過去の過ちを察して未来の行方を知る）」精神は健在である。歴史に教訓が記録されない時、そして歴史に学ぶことができない時、歴史は繰り返される。</p> <p>これは拙著『儒教の知恵』の一節です。本講義は中国の歴史書に記録される史料を通して、歴史を記録することの意味を、そして歴史を学ぶことの意味を考えながら今日の日本や世界を考え、二十一世紀の世界を模索するものです。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I 歴史から何を学ぶか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史観－歴史を記録することの意味 2 微言大義－『春秋』 3 革命思想－『孟子』 4 華夷思想 <p>II 正史－中国の歴史書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 司馬遷と『史記』 2 班固と『漢書』 3 災害異変と体制批判 4 鑑戒 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・レポート（複数回）・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>市井三郎著『歴史の進歩とは何か』（岩波新書） 串田久治著『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』（中公新書） 串田久治著『中国古代の「謠」と「予言」』（創文社） 串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書） KUSHIDA'S WEB SITE 武田泰淳著『司馬遷－史記の世界』（講談社学術文庫） 加地伸行著『史記－司馬遷の世界』（講談社現代新書）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講義中に史料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋史	02	秋学期集中	4単位	原山 煌
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、中国世界を中心とする東アジア世界、そしてそれ以外のアジア諸地域を主な考察の対象とする。アジアの歴史は、「中華」と自認する漢民族と、その周辺に居住する諸民族（漢民族からは「夷狄」とよばれる）の二大要素の相剋によって展開されてきたという見方ができる。よく知られている北方騎馬遊牧民族、一匈奴や突厥、モンゴルなどは特に著名－の活動により、中国世界、そしてアジア全体、ひいては世界史的規模で実質が大きく変貌することがあった（モンゴル時代史とはまさにそのような時代である）。一方、忘れてはならないもうひとつの大きな潮流として、今や10億人をこえる信者をもつイスラム教圏がある。そうした異質の要素を含みこむアジアの歴史を通観し、再構成してみよう。こうした問題関心は、多民族複合国家として存在する現在の中華人民共和国をはじめ、アジア諸地域のありようを考えてみる場合にも大きなヒントにもなることだろう。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目的と講義の進め方の説明 2. 以下、講義概要に示した関心から、問題を設定してアジア諸地域の歴史の特質を通観して行く。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への理解度と出席状況を確認するための小テストを毎回おこなって出席状況と理解状況を確認する。これと学期末の定期試験によって総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>寺田隆信『物語 中国の歴史』中公新書 中央公論社。 松田寿男『アジアの歴史』岩波書店。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>宮崎市定『アジア史概説』中公文庫 中央公論社。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地理学概論 (旧 自然地理学)	0 1 0 2	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	野 尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>地理学は具体的な「地域」、抽象的な空間および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象とし、固有の理論や法則を持っている。この授業では人文地理学や自然地理学の基礎について、具体例をもとに学習する。</p> <p>しかし、近年は学習指導要領の改訂により、中学や高校で地理について、体系的に学ぶ機会は少なくなった。高校で地理が未履修の学生も多い。その対応策も行なわなければならない。またこの授業は教職（教科に関する専門科目）であるから、教員採用試験の対策も行なわなければならない。したがって暗記事項が多く、負担も重いので、注意して履修すること。教員採用試験、公務員試験、民間採用試験の地理の受験対策を兼ねる。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球世界の形成 2. 人口と居住地域 3. 国土と民族 4. 生活圏の拡大と地理認識の発展 5. プレートテクトニクスと地形 6. 気候と植生、土壌 7. 日本の自然環境 8. 世界の農林水産業 9. 世界の鉱工業 10. 村落と都市 11. 国家の結びつきと国際協力 12. 世界と日本の貿易 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験（持ち込み不可）のみ。出席は、成績に一切考慮しない。試験問題は客観テストと論述形式。中学高校の教員として最小限必要な知識と文章構成力を単位習得の必要条件とする。得点が上位から3.5.0位以下の席次の履修者には単位を与えない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適時、紹介する。 中学・高校時に使用した「地図帳」（出版社を問わない）を持っていれば、持参していただけると望ましい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>地理ノート編集部、『詳説地理ノート』、山川出版社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地誌	0 1 0 3	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	野 尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>地誌とは、地理学のなかで、具体的な地域の特性の説明を行なう領域である。中学社会および高校地理歴史科教員免許取得のための必修科目でもある。中学社会・高校地理の授業でどのような内容を教えるのかについて、学習をする。そのため、教員採用試験の受験対策（それは公務員試験・就職試験の対策も兼ねる）も授業で行なわなければならない。それゆえ、履修者は単位を習得するために、大量の地名を暗記する必要がある。このように履修にあたっては負担の重い科目であるので、教職を取らない学生はそのことに十分に注意して、履修手続きをすること。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地理学と地誌との違い 2. 景観、等質地域、結節地域の諸概念 3. ヨーロッパの地域統合 EUの形成とその課題 4. 旧西ドイツの外国人労働者問題 5. アメリカ合衆国 インナーシテイ問題 6. ラテンアメリカ モノカルチャ経済の悩み 7. オーストラリア 白豪主義の克服 日本による経済開発 8. アフリカ 砂漠化と食糧問題 9. シベリア 開発と環境問題 10. アジア NIEs諸国の経済発展 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験（持ち込み不可）のみ。出席は一切、成績に考慮しない。出題形式は客観テストと論述問題とする。得点が上位から3.5.0位以下の席次の履修者には、単位を与えない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中学・高校時に使用した「地図帳」（出版社を問わない）を持っていれば、持参していただけると望ましい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>地理ノート編集部、『各国別地理ノート』、山川出版社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地誌	02	春学期	2 単位	藤 森 勉
[講義概要・学習目標] 地誌学は一般地理学(系統地理学)とともに地理学の2大部門を構成するものである。地誌学は地域ごとの特性を明らかにし、対象地域を正しく理解することを目的としている。本講義は地誌学の成果を地域ごとに整理・解説するものであり、春学期では大スケールの対象地域として第2次大戦後、中が国と緊密な関係を結ぶにわたったオーストラリアを取り上げる。	[講義計画] (1)先住民アボリジニアの生活と社会 (2)植民地時代の経済とアボリジニアとの関係 (3)ゴールドラッシュと中国人移民 (4)独立の経緯と白豪主義 (5)鉱工業の発達 (6)戦後における日本の諸関係			
[成績評価の方法] 期末テスト 90% 出席率 10%	[参考文献] 授業中に紹介する。			
[教科書] 使用しない。プリントを教室で配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地誌	04	秋学期	2 単位	藤 森 勉
[講義概要・学習目標] 地誌学は一般地理学(系統地理学)とともに地理学の2大部門を構成するものである。地誌学は地域ごとの特性を明らかにし、対象地域を正しく理解することをその目的とする。本講義は地誌学の成果を地域ごとに整理・解説するものであり、秋学期は小スケールの対象地域として中が国のさまざまな地域を取りあげ、形成課程や現状の問題点を明らかにする。	[講義計画] (1)有明海の干拓地と佐賀平野の農業 (2)瀬戸内海塩業の変遷と地域の変化 (3)中国山地のたたら製鉄 (4)過疎山村(和歌山県北山村) (5)砺波平野の散居集落 (6)金属洋食器産業の町(新潟県燕市) (7)その他			
[成績評価の方法] 期末テスト 90% 出席率 10%	[参考文献] 授業中に紹介する。			
[教科書] 使用しない。プリントを教室で配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
哲学		通期	4単位	木下昌巳
<p>[講義概要・学習目標] 本学での倫理学の授業の中で、学生諸君に「哲学は必要か?」という問いをしたところ、少なからぬ人が「そもそも哲学というものが何を研究する学問なのかわからないので、答えようがない」という返答をした。哲学の対象分野が必ずしも明確ではないことは事実であり、そもそも「哲学とは何か?」という自体がすでに哲学的問題であると言うことができる。だが、対象分野が明確ではないとしても、さまざまな問題に対する哲学的なアプローチというものが存在すると考える。本講義では、古代ギリシャから現代に至るまでの数人の哲学者の思想を紹介しながら、哲学的な問題意識のあり方というものに触れてもらい、その上で現代に生きる我々とそれらの哲学的問題との関わりを考察することを旨とする。</p>	<p>[講義計画] 1, 古代ギリシャ 2, 近代 3, 現代 という大きな枠組みで論じていく予定。</p>			
<p>[成績評価の方法] 学期末テストによる</p>	<p>[参考文献] 授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書] なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
倫理学		通 期	4単位	木下昌巳
<p>[講義概要・学習目標] 「生命倫理」をテーマとして講義をおこなう。 「生命倫理」とは、倫理学のなかでは比較的新しい一分野であり、安楽死・臓器移植・クローン人間などの従来の医学では禁止されていた行為の許容基準を明らかにする目的で生まれた学問である。クローン人間の製作やヒトゲノムの解析といった最新の技術が提起するさまざまな問題は、日常生活のなかで問われることなく自明のこととしていたさまざまな価値観をあぶり出し、そこでわれわれはあらためてその是非を問われることになるのである。本講義では、これらの複雑な論点を整理し、それらの問題を解決するための糸口を探っていくことにする。</p>	<p>[講義計画] 前期は、生命倫理固有の問題に焦点を絞り、インフォームド・コンセント、臓器移植、クローン人間などのテーマを順に論じていく。後期においては、生命倫理のテーマにこだわることなく、倫理的な問題に関わる現代のトピックをいくつか取り上げ、検討する予定である。</p>			
<p>[成績評価の方法] 学期末試験による</p>	<p>[参考文献] 授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書] 加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療 パイオエシックスの練習問題』(PHP新書)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
職業指導		通 期	4 単位	松 原 勇
[講義概要・学習目標] 経営革新時代に働く職業人は、グローバル・スタンダード（国際標準）の識見とエネルギーに満ちた豊かな人間力を磨くことが大切である。現代の企業は「選択」・「集中」を念頭に入れ、経営を迅速化・効率化に対応できる職業人を強く要請している。職業人には大志を抱き、優れた職業倫理を身につけ、職務に情熱を傾け、自覚と責任ある使命感に満ち、自己の魅力ある知性と感性を磨き、広い視野をもち、持てる能力を最大限に発揮できる知識・技術の習得が求められる。本講では、その趣旨を踏まえ、産業経済に対応できる職業意識の高揚を目指し、職業観を明確にして職業能力の適性を伸ばさせ、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。 併せて、就職活動の準備のための「期待される新職業人像」を網羅して、創造力・表現力等の方法論の実践指導も図る。	[講義計画] 1 生涯教育と職業指導 2 職業指導の必要性 3 就職活動への指針・実学 4 就職試験の実践指導 5 期待される新職業人像 6 学生生活と社会生活の相違 7 働くことの意義 8 職業人の心得 9 業務の上手な進め方 10 ビジネス文書の書き方 11 電話の取り扱い方 12 職場の人間関係の重要性 13 創造力・表現力の実践指導 14 魅力ある職業人を目指して 15 職業人の人間力を磨く手法等			
[成績評価の方法] 主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、コミュニケーション能力の実践面、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。	[参考文献]			
[教科書] 松 原 勇（著）「経営革新時代の 新ビジネスマンの基礎知識」（ぎょうせい）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋美術史		春学期集中	4 単位	林 宏作
[講義概要・学習目標] 美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。この講義では、東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活、社会などを基盤として、どのような芸術が創造されてきたのかを問いたい。それには先史時代・殷・周・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国芸術史の継続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにしてアジア諸地域の文化との交流という広範な視野からも中国芸術の全貌を眺めてみたい。各時代の特色や代表的な作家について述べながら、中国絵画における線描や皴法の特徴、山水画の起源、書画同源の問題、さらに謝赫の六法論、写実と写意の概念、董其昌の南北画論などの理論についても論じてみたい。	[講義計画] 1. 芸術創造の基盤条件としての中国の自然と生活、社会 2. 先史時代の遺跡と出土した芸術品 3. 殷・周時代の文化と芸術 4. 戦国時代の混乱と芸術の衰退 5. 秦・漢時代、中華文明の形成と遊牧国家の成立が芸術に与えた影響 6. 南北朝時代の文化と芸術 7. 隋・唐・宋時代の文化と芸術、東アジア世界の形成と日本文化への影響 8. 元時代の書画 9. 明時代の文化と書画 10. 清時代、西洋列強の進出と伝統文化の対立			
[成績評価の方法] 出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業考古学		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>産業考古学は1951年に英国で生まれた新しい学問である。それは産業史や技術史、社会・経済史、地方史など周辺学問との学際的研究で展開され、文献研究だけでなく、産業遺跡・遺物そのものの調査・研究を重視し、その文化財としての保存・記録を進める。</p> <p>わが国が欧米の近代技術の導入を通じて産業の近代化にふみ出してから一世紀余りが経ち、この間の産業技術の発達にめざましいものがある。この過程で、当然のことながら生産品の変遷が進み、消えていった品々も多い。</p> <p>歴史的、技術的、文化的価値のある工場や生産設備、機械器具、製品、図面、文書類など、それぞれの時代を担い、産業技術の発展に貢献した貴重な遺産である産業資料の収集・保存は重要な課題である。</p> <p>産業考古学がどのような学問か、調査研究の対象と方法、産業遺跡・遺産保存の基準、日本の産業技術の発達などとともに、産業博物館について講義する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>産業考古学の定義、調査研究の対象と方法、日本の産業考古学、遺跡や遺物の体系的保存、体系的保存のための基準、日本の産業技術の発達、産業考古学と保存運動、企業と産業遺跡・遺物の保存、文化財としての産業遺跡・遺物、日本の産業遺跡・遺物（エネルギー生産の跡、金銀銅や鉄など金属材料生産の跡、石炭生産の跡など）、日本の近代産業の発達と産業技術史博物館（繊維機械および自動車とその生産技術の展示）、イギリスの産業遺跡・遺産とその保存状態、イギリスにあって日本では多くが失われた物、そして近畿の産業博物館（近畿地域の主な産業博物館を取り上げ、その産業や技術の歴史の概要と博物館の展示内容や特徴）を述べる。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートの提出を課す。期末に試験をする。 試験の点数とレポートの評価で成績をつける。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>産業記念物調査研究会 「近畿の産業博物館」 阿叻社</p>		
<p>[教科書]</p>				

「コンピュータ利用 I」クラス一覧

クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ
01	北條 仁志	71371	85	15	永田 淳次	61371	87	29	崔 宇	31375	88
02	"	72371	85	16	"	61372	87	30	"	32373	88
03	岩田 賢造	41373	85	17	"	62371	87	31	"	32374	88
04	"	41374	85	18	"	62372	87	32	水口 薫	41375	89
05	"	42374	85	19	初瀬 慎一	12372	87	33	"	41376	89
06	"	42375	85	20	"	12373	88	34	"	42376	89
07	田中 裕顕	33373	86	21	"	13375	87	35	"	42377	89
08	"	33374	86	22	"	13376	88	36	"	23372	89
09	"	34371	86	23	"	31372	87	37	"	24371	89
10	"	34372	86	24	"	31373	88	38	"	43374	89
11	田村 昶三	21372	86	25	"	33375	87	39	"	44372	89
12	"	21373	86	26	"	33376	88	40	巖 圭介	22373	90
13	"	22371	86	27	"	32372	88				
14	"	22372	86	28	崔 宇	31374	88				

88

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. どのクラスも今までコンピュータに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としています。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
5. この科目は、学則上「共通自由科目（2単位）」に位置づけられています。
6. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順ではない）**が必要です。

対 象 者： 02・03・04（E・SS・SW・B・L・LE・LI）生は（01～40）クラス対象

法学部生（02J・03J・04J）は（03～06・11～14）クラス対象

定 員： 35名

予備登録日：

在学生（02・03生）

 3月18日（木）～23日（火）

新入生（04生）

 4月5日（月）～6日（火）

予備登録時間：【平日】 9:10～16:40（11:30～12:30昼休憩）

【土曜】 9:10～13:00（11:30～12:30昼休憩）

場 所：自由投函箱（教務課ロビーに設置）

クラス発表：

在学生（02・03生）

 3月30日（火） } 聖アンデレ館下掲示板）および

新入生（04生）

 4月9日（金） } 「授業情報ホームページ」

申 込 方 法：①「コンピュータ利用 I 予備登録票」（新年度書類在中）に必要事項を記入して投函してください。

- ②希望するクラスを3つ以内で記入してください。ただし、同一クラスを記入することはできません。また、既に予備登録を済ませた科目やクラス発表のあった科目と重ならないよう注意してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	01 02	7月集中 8月集中	2単位 2単位	北 條 仁 志
【講義概要・学習目標】 近年、コンピュータの発達に伴い、インターネットや電子メールによる情報伝達、ワープロによる文書作成や数値計算等、様々な目的に応じてコンピュータを利用する機会が増えている。 本講義では、コンピュータに触ったことの無い初心者を対象として、コンピュータの基本的な概念について学習する。それらを身近な道具として利用し、インターネット上の様々な情報を活用できるための知識を習得することを目標とする。	【講義計画】 以下の項目について講義・実習を行う。 1. コンピュータの基礎的概念 2. パソコンの操作方法 3. ワープロによる文書の作成 4. インターネット（電子メール、WWW）の活用 5. 表計算ソフトの基本的操作 6. プレゼンテーションソフトの基本的操作			
【成績評価の方法】 講義時の課題と出席状況により総合的に評価する。	【参考文献】 特に指定しない。			
【教科書】 桃山学院大学情報センター編 『ユーザーズガイド』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	03 04 05 06	春 学 期 秋 学 期 春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位 2単位 2単位	岩 田 賢 造
【講義概要・学習目標】 インターネットの普及に伴いエレクトロニック・コマースやビジネスモデルなど新しい情報技術（IT）を利用した事業やベンチャー企業が出現しています。 日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、政府はIT戦略会議で2005年には「世界最高水準の高度情報通信ネットワークの形成」を目指す、e-japan計画を推進しています。授業では、コンピューターを利用する上で必要な基本的な知識・操作方法をはじめ、インターネット、電子メール、ワード、エクセル、パワーポイントなどの使い方を説明し、ワードによる文章作成法、エクセルによる表の作成・データ分析など、プリントで指示する課題を作成して提出いただきます。また、授業の始めには、社会の動向やIT関連のニュースなどについてお話しします。 尚、この授業はパソコンを使った経験のない初心者を対象としますので、使用経験のある方はご遠慮ください。	【講義計画】 1) パーソナル・コンピュータの概要 2) 基本操作とキーボード練習及び文字入力 3) インターネットの基本操作とホームページ検索法 4) 電子メールの基本操作及びネチケットとセキュリティ 5) ワードプロソフト（Word）の基本操作と文章作成 6) 表計算ソフト（Excel）の基本操作及び表計算法 7) Excelのグラフ表現とデータ分析方法 8) プレゼンテーションソフト（Power Point）の基本操作と資料作成法			
【成績評価の方法】 出席を重視します。出席日数60%以上と数回の課題提出による総合評価を行ないます。キーボードの入力練習などの基本練習は、時間外に行なっていただきます。	【参考文献】 大学生のためのレポート・論文術 小笠原喜康著 講談社現代新書			
【教科書】 桃山学院大学計算機センター編「ユーザーズガイド」を利用します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	07	春 学 期	2 単 位	田中 裕顕
	08	秋 学 期	2 単 位	
	09	春 学 期	2 単 位	
	10	秋 学 期	2 単 位	
[講義概要・学習目標] コンピュータリテラシーとは、コンピュータを使った「読み/書き/そろばん」能力のことである。本実習では広く散在する情報の中から何が重要か判断しつつデータ収集し、データ加工により文書作成/数値統計処理/図表を用いた説明をし、ネットワークを介して情報発信することでコンピュータリテラシーを涵養する。 コンピュータを使う目的は、主に次の3つである。以下のアプリケーションソフトによる実習を行う。 1. コミュニケーションしよう 「WEBブラウザ」「メール」を用いる。 2. 表現しよう 「WORD」を用いる。 3. 計算しよう 「EXCEL」を用いる。	[講義計画] テキストエディタの活用 メモ帳を用いる。 第1週から第4週：インターネットの活用 インターネットとは、情報倫理、インターネットへの接続、電子メールの利用方法(WEBメール、OE)、メールの送受信 第5週から第9週：Wordの活用 Wordの概要、文書の新規作成、文字列の移動とコピー、ファイルの保存、フォントの装飾、文字や行の配置、テキスト開始位置の調整、ヘッダーとフッター、文字入力に応用、文字の検索と置換、画像の挿入、画像のサイズや位置の変更、図形の描画、ワードアート、表の挿入、印刷プレビュー、印刷 第10週から第14週：EXCELの活用 ワークシートとセル、表やグラフの作成、計算			
[成績評価の方法] 最低8回は出席すること。出席点とレポート提出点を総合して評価する。	[参考文献] ネチケットーネットワークのエチケット バージニア・シャー (著)、松本 功 ひつじ書房 価格：¥1,500 超図解 Word2002 WindowsXP 総合編 超図解シリーズ エクスメディア (著) 価格：¥1,380 ビジネスシーン即効Excel2002 超入門 学習研究社 (編集) 価格：¥1,200			
[教科書] ユーザーズガイド (桃山学院大学情報センター著) 講義開始前のイントロダクションで配布します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	11	春 期	2 単 位	田 村 昶 三
	12	秋 期	2 単 位	
	13	春 期	2 単 位	
	14	秋 期	2 単 位	
[講義概要・学習目標] 講義概要 eビジネスが主流になってきました。しかし、コンピュータを習熟するには、それなりの時間とエネルギーがかかります。それを効率的に勉強するにはツボを押さえた学習方法があります。大学生活に必要な情報処理の入門です。 パソコン基礎を習得を目的とする「基礎の基本」を勉強します。パソコンを道具として使いきるための初心者向けの講義です。情報処理は大まかに(1)情報収集-(2)情報整理-(3)情報伝達-(4)情報保管・蓄積-(5)情報検索のフェーズに分かれます。この中で(2)-(4)までをコミュニケーションの手段としてのパソコンを実習しながら勉強をします。 学習のゴール パソコン基本操作から始めますが、パソコン・リテラシー習得を授業の中心にします。 ビジネスで文書やドキュメントを中心に日本商工会議所パソコン検定試験(ワーブ・表計算)合格水準を目標に技能習得します。 コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の養成を目標にします。 Webに関する基礎知識を身につける。	[講義計画] 1. Windowsの起動と終了。書式設定と印刷の仕方。 2. パソコンの基本操作(キータッチとマウス) *キータッチがパソコンのスタートです。 3. ワープロソフト(文字入力、文書作成編集、美しい文書表現) *ワープロ入力のスピードアップ。講義が終わるときに「手書きより速く入力できるようにする」を目標。 4. EXCEL(データとグラフ)(データ入力、表の作り方、グラフ作成) *表計算(EXCEL)の基本的な使い方が分かり基礎的な使い方はこなせる。「統合」の概念を理解する。、「関数」が使えるようになる。 5. POWER POINTの使い方 *論理の進めかたと表現の習得 6. インターネットの利用(WWW、電子メール、メールマガジン、) 7. 正しい電子メールの送り方を習得する。実際にメール交換をする。 8. 情報保管蓄積、情報検索、データベースを理解する。 *インターネットによる情報収集の限界と情報検索の重要性を理解する。 9. 情報技術(IT)の活用するには、何をすべきか。 10. ビジネス文書の基本を学ぶ。初歩的ビジネス文書の作り方を実践する。			
[成績評価の方法] 出席が3分の2以上。 授業開始時に毎週入力練習課題(10分間)を提出。 授業終了時の理解度テスト提出。学期末試験により総合的に評価する。	[参考文献] 桃山学院大学情報センター(編)『ユーザーズガイド』			
[教科書] 教材は、毎週プリントで配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	15	春 学 期	2 単 位	永 田 淳 次
	16	秋 学 期	2 単 位	
	17	春 学 期	2 単 位	
	18	秋 学 期	2 単 位	
[講義概要・学習目標]	<p>コンピュータはその名前が示すとおり、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという特長を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても利用されている。</p> <p>本講義では、初心者がコンピュータやコンピュータネットワークの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。</p> <p>また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。</p>			
[講義計画]	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの概要と基本的な操作 2. メールによるコミュニケーション 3. インターネットの基礎知識 4. プレゼンテーション 5. 表計算ソフトウェアの利用 6. 日本語文書の作成 			
[成績評価の方法]	<p>提出された課題レポートの総合評価。出席は3分の2以上。</p>			
[教科書]	<p>必要に応じてプリントを配布</p>			
[参考文献]	<p>桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』</p>			
[注意]	<p>本授業は、コンピュータ利用経験の浅い初心者を対象としている。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	19	春学期	2単位	初 瀬 慎 一
	21	春学期	2単位	
	23	春学期	2単位	
	25	春学期	2単位	
[講義概要・学習目標]	<p>情報化社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。</p> <p>授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としパソコン実習を通して、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークやマルチメディアについて、また表計算、ワープロソフト、インターネットの利用等を学習する。</p>			
[講義計画]	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルコンピュータの概要 2. コンピュータの基本操作 3. インターネットの活用とセキュリティ 4. 電子メールとネチケット 5. オフィスツール(ワープロ・表計算)の活用 6. その他の情報活用法 			
[成績評価の方法]	<p>提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。</p>			
[教科書]	<p>開講時に指示する。</p>			
[参考文献]	<p>桃山学院大学情報センター(編)『ユーザーズガイド』</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	20	秋学期	2単位	初 瀬 慎 一
	22	秋学期	2単位	
	24	秋学期	2単位	
	26	秋学期	2単位	
	27	秋学期	2単位	
[講義概要・学習目標] 情報化社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。 授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としパソコン実習を通して、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークやマルチメディアについて、また表計算、ワープロソフト、インターネットの利用等を学習する。	[講義計画] 1. パーソナルコンピュータの概要 2. コンピュータの基本操作 3. インターネットの活用とセキュリティ 4. 電子メールとネチケット 5. オフィスツール(ワープロ・表計算)の活用 6. その他の情報活用法			
[成績評価の方法] 提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。	[参考文献] 桃山学院大学情報センター(編)『ユーザーズガイド』			
[教科書] 開講時に指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	28	春学期	2単位	崔 宇
	29	秋学期	2単位	
	30	春学期	2単位	
	31	秋学期	2単位	
[講義概要・学習目標] コンピュータは現代社会において重要な情報処理の道具として使われている。この講義では基本的な情報処理能力が必要とするコンピュータの基礎知識や操作方法の習得を学習目的とする。 1. コンピュータの基本構造やキーボード操作などコンピュータに関する基礎的な知識を身につける。 2. ワープロ (Word)、表計算 (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) などのアプリケーションソフトの使い方を習得し、簡単な報告書の作成を目指す。 3. 電子メールやインターネットの利用法を習得する。	[講義計画] 1. コンピュータの基礎知識 2. Wordの操作：文書の編集 3. Excelの操作：効率のよい表の作成、数式と関数、グラフ機能 4. PowerPointの操作：プレゼンテーション機能 5. インターネットの仕組みとその活用 6. 電子メールの利用			
[成績評価の方法] 出席、宿題、期末レポートによる総合評価	[参考文献] 開講時に紹介する。			
[教科書] 開講時に指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	32・37	春学期・春学期	2単位 2単位	水口 薫
	34・38	春学期・春学期	2単位 2単位	
	36・39	春学期・春学期	2単位 2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>近年、特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会は、情報化社会において、その発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。</p> <p>講義の進め方は、初心者が最後まで行えるよう、ゆっくりしたペースでの反復学習を行う。</p>		<p>1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）とOSの概要</p> <p>2. コンピュータの基礎操作とキーボード練習</p> <p>3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト）</p> <p>4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト）</p> <p>5. ネットワークと情報検索（インターネットソフト）</p> <p>6. ネットワークの情報交換（e-mail、データ転送・添付）</p> <p>7. コンピュータの可能性について</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>講義時の課題、レポート、出席により総合評価</p>				
[教科書]				
<p>「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者に配布</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	33	秋学期	2単位	水口 薫
	35	秋学期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>近年、特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会は、情報化社会において、その発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。</p> <p>講義の進め方は、初心者が最後まで行えるよう、ゆっくりしたペースでの反復学習を行う。</p>		<p>1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）とOSの概要</p> <p>2. コンピュータの基礎操作とキーボード練習</p> <p>3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト）</p> <p>4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト）</p> <p>5. ネットワークと情報検索（インターネットソフト）</p> <p>6. ネットワークの情報交換（e-mail、データ転送・添付）</p> <p>7. コンピュータの可能性について</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>講義時の課題、レポート、出席により総合評価</p>				
[教科書]				
<p>「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者に配布</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	40	秋学期	2 単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>コンピュータを使わずに仕事をするのがありえない時代になった。少し前ならコンピュータ使用の経験は特技としてアピールできたが、今では使えて当たり前。ワープロを使いこなせないのは字が書けないのと同じ、電子メールを使えないのは電話の使い方を知らないのと同じである。</p> <p>一方で、年々ますます高性能になるコンピュータは、様々なことを可能にする魔法の箱でもある。インターネットも無限の可能性を秘めて日々成長している。このようなコンピュータの世界を知らずにいることは、人生の損失以外の何ものでもない。</p> <p>この授業では、コンピュータにほとんど触ったことのない人を対象に、コンピュータの基礎を学んでもらう。ワープロ、表計算などビジネスで必要とされる基礎技術に加え、プレゼンテーション、ホームページの作成など、コンピュータの楽しさも味わってもらえる授業にしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>下記の項目について実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータのさわり方 ・キーボード入力 ・電子メール (Outlook Express) ・インターネット (Internet Explorer) ・ワードプロセッサ (MS Word) ・表計算 (MS Excel) ・プレゼンテーション (MS PowerPoint) ・ホームページ入門 <p>ただし、進度によってはプレゼンテーションやホームページ入門は割愛することがあります。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況と提出物、期末の実技テストによる。欠席4回で除籍する。遅刻にも厳格に対処する。</p>	<p>[注意]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この授業は初心者を対象としています。経験者が受講しても退屈なだけですし、経験者が入ることによって、本来受講すべき初心者が受講できない事態も生じます。ある程度心得のある人は、なるべく他の授業を受けるようにして下さい。 			
<p>[教科書]</p> <p>桃山学院大学情報センター編「ユーザーズガイド」 (最初の授業で支給します)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2. コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけではなく実際に使って身体で覚えてもらわねばなりません。毎回出席することはもちろんですが、自由時間に自習する必要もあります。 			

「論述作文」クラス一覧

クラス	担当者	時間割コード	ページ	クラス	担当者	時間割コード	ページ	クラス	担当者	時間割コード	ページ
01	岩男久仁子	52373	92	05	生瀬 克己	42378	93	09	柳父 章	42380	95
02	"	53373	92	06	深澤 徹	51371	94	10	串田 久治	54371	96
03	木下 昌巳	12374	92	07	松永 俊男	42379	94				
04	小柳 伸顕	32375	93	08	三浦 俊介	12375	95				

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は30名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
4. この科目は、学則上「共通自由科目（4単位）」に位置づけられています。（02・03・04生）
5. 履修登録にあたっては、以下のとおり事前に予備登録（先着順ではない）が必要です。

対象者：02・03・04（E・SS・SW・B・L・LE・LI）生は（01～10）クラス対象

法学部生（02J・03J・04J）は（01・03・05・09）クラス対象

定員：30名

予備登録日：在學生（02・03生） 3月18日（木）～23日（火）

新入生（04生） 4月5日（月）～6日（火）

予備登録時間：【平日】 9:10～16:40（11:30～12:30昼休憩）

【土曜】 9:10～13:00（11:30～12:30昼休憩）

場所：自由投函箱（教務課ロビーに設置）

クラス発表：在學生（02・03生） 3月30日（火） } 「聖アンデレ館下掲示板」および

新入生（04生） 4月9日（金） } 「授業情報ホームページ」

申込方法：①「論述作文予備登録票」（新年度書類在中）に必要事項を記入し投函してください。

- ② 希望するクラスを3つ以内で記入してください。ただし、同一クラスを記入することはできません。また、配布した「個人別指定クラス一覧」の曜日・時間と重ならないようにクラスを選定してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	01 02	通 期 通 期	4 単位 4 単位	岩 男 久仁子
[講義概要・学習目標] 文章で、自分の意見を明確に表現できるようになる。それは、読み手に理解されるような文章を書けるようになることである。 また、人前で「発表」をする練習を取り入れる。 時間中は手書きで原稿を書くが、それを自ら添削し、書き直して提出する時にはパソコンのワープロソフトで作成したものを、提出する。 必ず、論述作文用の原稿用紙を購入すること。 毎回、国語辞典(電子辞書可)を持ってくること。 (辞書代わりに携帯電話は使わないこと。)	[講義計画] <春学期> 自己紹介、履歴書など、自分の事柄を中心としたテーマで、毎回短い文章を書いていく。テーマは授業時のはじめに伝える。 <秋学期> 一つのテーマを決めて「論文」を仕上げる。「卒業論文」を書くために必要なスキルを身につける。参考文献の探し方、注釈の付け方など。			
[成績評価の方法] 試験は行わない。出席重視。遅刻厳禁(欠席とみなす)。 文章の評価は個々の努力により評価する。	[参考文献] 授業時に紹介する。			
[教科書] 必要時にプリントを配布。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	03	通 期	4 単位	木下昌巳
[講義概要・学習目標] 文章の大きな目的は、自分の考えていることを文章によって自分以外の人に伝えることである。せっかくよい考えをもっている、ただ漫然と書いてあつたら、それはなかなか読み手には伝わらないだろう。たとえば大学の授業の課題として提出するレポートを書くときに、どれほど綿密に資料を調べたとしても、どれほど独創的な考えを持っていたとしても、読み手に理解されるような仕方では適切に整理され論理的に書かれていなければ、それはけっしてよいレポートにはなりえない。文章にはしかるべき書き方がある。この授業では、文章を実際に書くことを中心として、広い意味で文章を書く技術を身につけてもらうことを目指す。それに加えて、図書館の使い方、資料の集め方、ワープロソフトの操作法の練習なども授業のなかに取り入れる。	[講義計画] ひと月に1本のペースを目標として、年間に6本程度書いてもらう予定。			
[成績評価の方法] 提出された作文による。	[参考文献] 授業中に指示する。			
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	04	通 期	4 単位	小 柳 伸 顕
[講義概要・学習目標] 人とのコミュニケーションの手段にはいろいろあります。身体表現、話すこと、絵をかきこと、音によることなどが挙げられますが、文章による(文字で表現)ことは、大切な、また基本的な手段です。文章を通じて、自分の意見と出来るだけ正確に伝えるためには、やはり日常的に「書く」という訓練が必要とす。授業では、テーマをあげ、作品を書くことと、その目標に少しでも近づきたいと願っています。そのため作品については、毎回添削や意見を書きます。	[講義計画] 1. 自己紹介とあい、他人を紹介する。 2. 資料(新聞社説、エッセー、小論文、ビデオ)などについて自分の意見をまとめる。 3. 夏休み、冬休みには、各1冊の書物を選び、それについて評論を提出する。 4. 1年間の授業についてまとめを書く。 * 作品は添削して返します。			
[成績評価の方法] 1. 授業に出席すること。2. 作品を提出すること。	[参考文献]			
[教科書] なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	05	通 期	4 単位	生 瀬 克 己
[講義概要・学習目標] この科目は、大学における学習・研究に必要な論理的で明快な文章を書くための訓練が目的である。具体的には、論述式の答案やレポートを作成するための文章形式の習得を目的としている。同時に、論述形式の文章を実践的に作成してもらうことも重要な目的である。	[講義計画] <春学期> いろいろな種類の文章になれることから始めて、そのような文章の作成に習熟することをめざす。 <秋学期> 各講義ごとに特定のテーマを設定して、そのテーマにそった800-1000字程度の小論文を作成してもらうことで、論理的な文章の作成に習熟してもらう。			
[成績評価の方法] 各回ごとの参加態度の熱心さや、誠実な参加態度が求められる。当然、出席率の高さを要求することになる。それらを前提にしての「平常点重視」となる。	[参考文献]			
[教科書] 特には指定しません。	必要なときに、適宜紹介します。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文 (2))	06	通 期	4 単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ言っておくと、本科目では、ワープロは一切使わない。一字一字刻み込むようにして文章を作って行く、そうした地道な作業に力点を置く。</p> <p>ワープロは便利で簡便なツールであり、これによって文章の作成は極めて容易になった。私自身もこれを簡便な道具として日々常用している。しかし簡便な分、それに反比例してそこから生み出される文章は軽くて薄っぺらなものになってしまう危険性が常につきまとう。現実問題として、誰にでも気軽に文章を作成し、公開に出来るようになったため、どうでもいいようなクズ情報がネットを通して世にあふれかえっている。</p> <p>もしかしたらこれは、私(深沢)の偏見かもしれない。しかし偏見であっても、本科目ではワープロ使用の文章作成は行わず、手書きの実践を繰り返すことに徹しようと思う。言葉を使い捨てにせず、一つ一つ大切に使うことで自己との対話を試みる、そうした場として本科目を設定したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>身近な題材から初めて、次第に自己の周囲に広がる社会や政治、経済や国際問題へと題材を広げていく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験もレポートもない代わりに、出席を最も重視する。各人の評価はどれだけ作業(文章を書いたり口頭発表をしたり)に積極的に取り組んだかで、総合的に判断する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>斉藤美奈子『文章読本さんへ』(講談社・2000)</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文 (2))	07	通 期	4 単位	松 永 俊 男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>的確な日本語で、自分の考えを表現できるようにするのが、この授業の目的である。特定のテーマについて、800字論文を授業時間内に仕上げることを一つの目標にする。</p> <p>ただし、小論文のほかに、レポートの書き方、手紙の書き方なども取り上げる。毎回、授業時になんらかの文章を書いてもらうが、家に持ち帰っての作業も少なくない。毎回出席して課題をこなしていけば着実に成果が上がるが、欠席が続くと授業の意味がなくなる。したがって、最初の授業から欠席するもの、無断欠席が続くものは除籍する。</p> <p>第1回目の授業には必ず出席すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第1回目の授業には必ず出席すること。</p> <p><春学期> 原稿用紙の使い方から初めて、正しい文章の書き方、論理的内容構成法へと進む。指定の原稿用紙を用いた手書きによる文章作成を練習する。</p> <p><夏期休暇> なんらかの課題を出題する。</p> <p><秋学期> ワープロを用いた文章作成を練習する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の授業の成果を総合して評価する。授業の性質上、原則として、欠席は許されない。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧 論述作文 (2))	08	通 期	4単位	三浦 俊介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>三浦の「論述作文」はレポート・論文の書き方を修得することを学習目標としている。学生諸君は、前期のうちにレポートの書き方の基本を学習し、前期レポートを書く。後期は前期レポートを訂正・増補して、修了論文を書く。学生諸君の修了論文は論文集として印刷・製本する。できれば合評会も開きたい。「論述作文」で学ぶことはゼミの論文執筆や成績アップの問題だけでなく、論述式のテスト全般や就職試験などにもきつと役立つだろう。本学以外に「論述作文」という講座を、少人数制度で開講している大学のことを聞いたことがない。「論述作文」は本学独自の講座である。三浦は、この、他に例のない、すばらしい講座の恩恵にあずからないのは損だと思う。担当が三浦である必要はない、とにかくできるだけ多くの学生に「論述作文」を受講してもらいたい。</p>	<p>[講義計画] 講義は以下の内容で進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス (年間計画・自己紹介など) 2、原稿用紙の使い方 (縦書き・横書き) 3、ワープロソフトの使用 (計算機センターで) 4、レポート・論文の手順 (ビデオを見て) 5、レポート・論文の構成 (起承転結・双括型など) 6、事実と意見とを混同するな 7、短文のすすめ 8、逆茂木型の文章を回避せよ 9、段落意識を持って 10、重要なことを先に書くことの重要性 11、引用と要約 12、補注と参考文献 13、レポート・論文の仕上げ <p>毎回何らかの作業を課す予定である。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 年度末の修了論文を重視する。修了論文を出さないと不可。 ② 毎回出席を取り、評価の参考にする。欠席過多者は不可。 ③ ほぼ毎回の提出物も重視する。 	<p>[参考文献]</p> <p>木下 是雄『レポートの組み立て方』(ちくま学芸文庫) 筑摩書房 清水幾太郎『論文の書き方』(岩波新書) 岩波書店 辰濃 和男『文章の書き方』(岩波新書) 岩波書店 小河原 誠『読み書きの技法』(ちくま新書) 筑摩書房 古郡 廷治『文章添削トレーニング』(ちくま新書) 筑摩書房 その他多数。随時紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文 (2))	09	通 期	4単位	柳父 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学生諸君の肉体はもう大人だが、精神はいま形成途上である。大学生活は若者の精神形成にもっとも大事な時期であり、文章を書くことは精神形成の重要な手がかりである。このことを踏まえて、毎時間に取り上げるテーマであるが、始めは自己紹介の文、次は友達紹介の文などから、自分の体験、とくに内面精神の形成についてのテーマ、というように、身近な文から始まって、次第に、社会問題、政治問題、思想的問題など、抽象的なテーマについて書いていく。論文の勉強であるから、自分の考えを、明快に、論理的に表現できるように教えたい。終業論文は、ワープロで打ってきてもらって、一冊の論文集にまとめて、クラス全員に渡す。それで、ワープロをできるようにしておくこと。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>毎時間、まず担当者がテーマを出し、そのテーマについて説明し、次に参加者学生に、400字詰め原稿用紙で2枚程度で書いてもらい、それを提出させ、採点する。次の時間に出来のいい論文を読み上げたり、全体の出来を批評したりする。</p> <p>論文用紙は生協で販売している「コクヨの800字詰め原稿用紙」を購入して、始めの時間、そして以後毎時間の授業に持ってくること。</p> <p>そして夏休み後、この授業の終業論文を書いてもらう。時間をかけて、自分が大事だと思うテーマをじっくり完成する予定である。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎時間提出してもらった論文と、後期の終わりに完成する終業論文との総合結果で評価する。別に試験はおこなわない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>私じしんの作文方法についての著書などを、随時取り上げるが、そのテキストは、その時々で紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくにない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	10	通 期	4単位	串田 久治
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>書を捨て旅に出よう!!</p> <p>本講義では、バーチャル海外旅行を経験します。各自が興味ある都市や国を選び、目的や動機、その土地の言語や民族、文化や習慣、食べ物や飲み物、そしてその地に到達する方法(交通手段)などを調査し、口頭発表した上で、そのつどそれを文書化します。また、自分の文書化したものを仲間に読んでもらって問題点を明らかにし、以下のことに注意しながら何度も推敲(文書の加筆訂正)を重ねていきます。</p> <p>1) おしゃべり(チャット)と発表(プレゼンテーション)の違い 2) 「話し言葉」と「書き言葉」の違い 3) 手紙と論述の違い</p> <p>なお、文書作成はパソコンで行います。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直感と予測を文書にする <ol style="list-style-type: none"> 1 動機と目的 2 地理と気候 3 手段と費用など ・調査後のレポート作成 <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史 2 タブー 3 文化的特色 3 目的地に到達する方法 5 旅費・滞在費 ・手紙をしたためる 旅先でお世話になった人への礼状 ・最終レポート 読む人に理解してもらうための文章 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点及び最終報告</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
学外研修(インターンシップ)	01 02	集中コース 集中コース	2単位 2単位	今 木 秀 和 義 永 忠 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>インターンシップとは、学生が在学中に企業などにおいて研修的な就業体験などをするプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることが目的としている。</p> <p>なお当科目については、4月に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修手続きができないので注意すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><u>プログラムの概要</u></p> <p>(1) 事前研修 ①プログラムのガイダンス ②研修企業・団体などの事前学習 ③ビジネスマナーの指導 ④研修要領の説明と報告書の作成指導</p> <p>(2) 研修期間 夏期休暇中(60時間以上、2週間の予定)</p> <p>(3) 事後研修 研修結果の報告</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>事前研修、事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを含めて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情 (外国人留学生用)		秋学期集中	4 単位	友 沢 昭 江
【講義概要・学習目標】 この授業は外国人留学生を対象とするもので、彼らをもっとも関心を持つ現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察します。日本社会についての知識を得るというよりはむしろ、なぜそういう現象があらわれるのかを授業中のディスカッションを通じて、留学生自身が考え、自分の意見を作り上げていくことをめざします。ディスカッションの幅を広げるために、日本語教師をめざす日本人学生にも参加の協力を求める予定です。	【講義計画】 時宜に応じたテーマを設定し、それに関連する新聞や雑誌の記事を読んだり、テレビ番組を材料とします。その後、ディスカッションを経て、レポートを書き、それを授業で発表し、さらに検証を加えます。ディスカッションには日本人学生も参加して議論の幅を広げるとともに、互いの考えを知る機会とすることをめざします。			
【成績評価の方法】 出席を第一に重視します。さらに授業中に意見を述べるなどの積極的参加姿勢や、課題となる宿題や小テスト、学期末の試験の成績などを総合して評価を行います。	【参考文献】 特になし。テーマに応じて授業中に言及します。 各自使い慣れた辞書を毎回持参すること。			
【教科書】 指定する教科書はありません。必要な資料は適宜教員が用意、配付します。				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チーフ
共通自由特別講義（職業を考える） （旧経済学特講（職業を考える））＜97～03生対象＞ （旧経営学特講（職業を考える））＜02・03生対象＞ （旧経営・商学特講（職業を考える））＜97～01生対象＞	0 1 0 2	春学期 秋学期	2 単位 2 単位	中 野 瑞 彦 木 村 二 郎
【講義概要・学習目標】 現役の職業人（本学卒業生を含む）から、業界の現状、企業組織の構図、仕事内容の多様性など体験を交えて講義していただくことを通して、働くことの意味とその実際の姿を学ぶとともに、学生自らの人生における職業の意味を考えてもらうことが、この講義の主要な目的である。また、この講義を通じて、「経済的自立」・「自己実現」・「社会的貢献」という働くことの意味を学ぶだけではなく、自分の進路を考える上でのヒントや履歴書の書き方など、実際に就職活動をする上でも役に立つ知識も身につけていけるように工夫する予定である。 この講義の性格からして、実際の就職活動を始める前の3年生以下の受講が望ましい。	【講義計画】 次のような内容を予定している。ただし、講義紹介以外は、諸般の都合により、変更されることがある。 「講義紹介」、「各業界（建設・薬品・自動車・教育・百貨店・旅行・金融・製菓・ファッション・リクルート）・役所・NPOなどにおける「職場の現状紹介」、「新聞を読む」、「履歴書の書き方」など12回程度を予定。			
【成績評価の方法】 小テストと期末試験などをベースに評価する。	【参考文献】 適宜指示する			
【教科書】				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ																				
共通自由特別講義 (IT活用の実際)		春学期	2 単位	藤間 真																				
<p>[講義概要・学習目標] 新聞・雑誌にURL(いわゆるホームページアドレス)が掲載されない日が無くなったことからわかるように、IT(Information Technology)は私たちの社会に深く根付いている。 本講義では、各業種でITを活用している現場の管理職の皆さんにおいて、最先端の企業の活用状況を話していただく。 また、余裕があればどのような人材がIT技術の現場で必要なのか、大学でどのような勉強をすることを企業側が望むのかについてもお話いただけるようお願いしている。</p> <p>なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。</p>	<p>[講義計画] 1回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。 2回目以降に関しては講義計画執筆時(2003年12月)現在交渉中である。参考の為に過去の類似科目の実績を下表に示す(順不同)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鐘淵化学工業</td> <td>「情報システムの変遷と情報システム現場の問題」</td> </tr> <tr> <td>ドコモAOL</td> <td>「インターネットビジネスの展望」</td> </tr> <tr> <td>ダイエー</td> <td>「流通業の世界のトレンド」</td> </tr> <tr> <td>武田薬品工業</td> <td>「情報システムの開発の方向」</td> </tr> <tr> <td>日本電気</td> <td>「公共事業の情報システム」</td> </tr> <tr> <td>新日本製鐵</td> <td>「顧客管理SCM(CRM)の最前線の実状」</td> </tr> <tr> <td>松下電器</td> <td>「全社的情報セキュリティ管理」</td> </tr> <tr> <td>ダイキン</td> <td>「企業経営とIT」</td> </tr> <tr> <td>ダン</td> <td>「靴下屋の情報戦略」</td> </tr> </tbody> </table> <p>最終回にまとめを行う。</p>					題目	鐘淵化学工業	「情報システムの変遷と情報システム現場の問題」	ドコモAOL	「インターネットビジネスの展望」	ダイエー	「流通業の世界のトレンド」	武田薬品工業	「情報システムの開発の方向」	日本電気	「公共事業の情報システム」	新日本製鐵	「顧客管理SCM(CRM)の最前線の実状」	松下電器	「全社的情報セキュリティ管理」	ダイキン	「企業経営とIT」	ダン	「靴下屋の情報戦略」
	題目																							
鐘淵化学工業	「情報システムの変遷と情報システム現場の問題」																							
ドコモAOL	「インターネットビジネスの展望」																							
ダイエー	「流通業の世界のトレンド」																							
武田薬品工業	「情報システムの開発の方向」																							
日本電気	「公共事業の情報システム」																							
新日本製鐵	「顧客管理SCM(CRM)の最前線の実状」																							
松下電器	「全社的情報セキュリティ管理」																							
ダイキン	「企業経営とIT」																							
ダン	「靴下屋の情報戦略」																							
<p>[成績評価の方法] 毎回の出席・受講態度及び最終レポートに基づき総合的に評価する。 詳細は1回目のオリエンテーション時に説明する。</p>	<p>[参考文献] 講義中に指示する。</p>																							